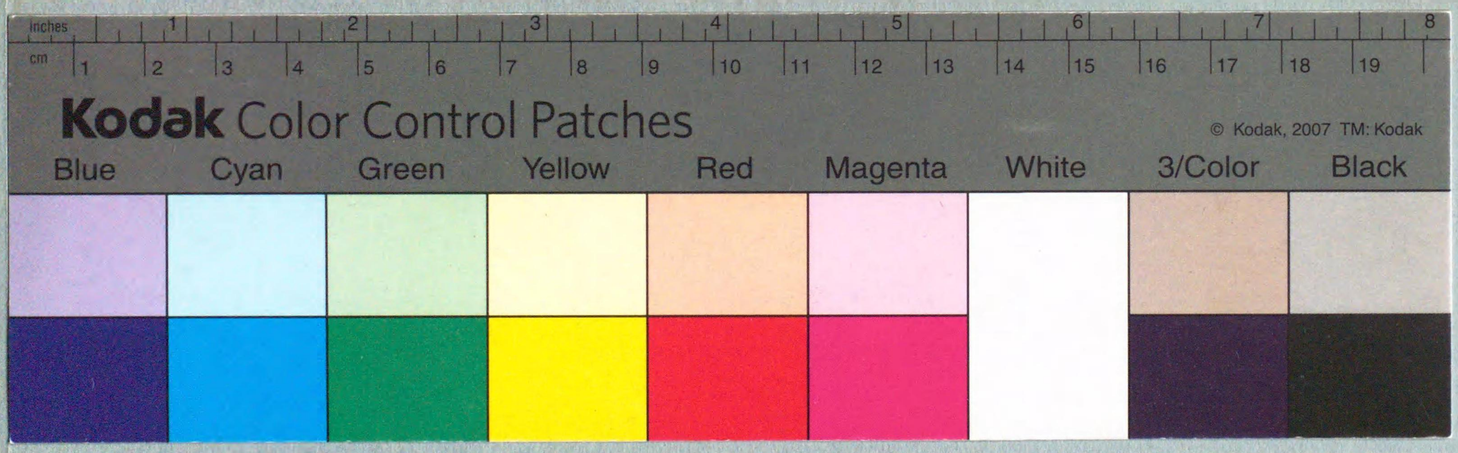
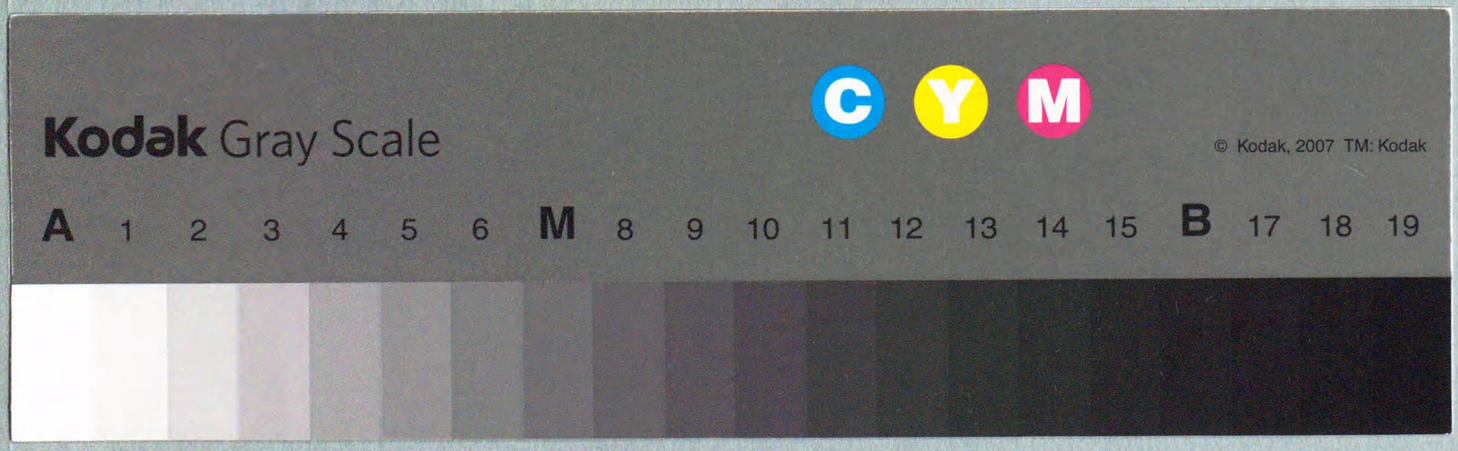

inches
cm
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black


Kodak Gray Scale
C
Y
M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

國立中央研究院歷史語言研究所
文庫
憲法
四五〇.計甲
吉郭計

穂積八束著

憲法提要

上巻

東京
有斐閣書房

大審院東京控訴院東京地方裁判所

憲法提要 上巻

穂積八束 著

東京 有斐閣書房

大審院東京控訴院東京地方裁判所図書印

告文

皇朕レ謹ミ畏ミ

皇祖

皇宗ノ神靈ニ誥ケ白サク皇朕レ天壤無窮ノ宏謨ニ循ヒ惟神ノ寶祚ヲ承繼シ舊圖ヲ保持シテ敢テ失墜スルコト無シ顧ミルニ世局ノ進運ニ膺リ人文ノ發達ニ隨ヒ宜ク

皇祖

皇宗ノ遺訓ヲ明徵ニシ典憲ヲ成立シ條章ヲ昭示シ內ハ以テ子孫ノ率由スル所ト爲シ外ハ以テ臣民翼贊ノ道ヲ廣メ永遠ニ遵行セシメ益〻國家ノ丕基ヲ鞏固ニシ八洲民生ノ慶福ヲ增進スヘシ茲ニ皇室典範及憲法ヲ制定ス惟フニ此レ皆

皇祖

最高裁判所図書館
明治文庫 2030
昭57 和

L1989
昭24 7.1. 和
最高裁判所図書館

告文

皇朕レ謹ミ畏ミ

皇祖

皇宗ノ神靈ニ誥ケ白サク皇朕レ天壤無窮ノ宏謨ニ循ヒ惟神ノ寶祚ヲ承繼シ舊圖ヲ保持シテ敢テ失墜スルコト無シ顧ミルニ世局ノ進運ニ膺リ人文ノ發達ニ隨ヒ宜ク

皇祖

皇宗ノ遺訓ヲ明徴ニシ典憲ヲ成立シ條章ヲ昭示シ內ハ以テ子孫ノ率由スル所ト爲シ外ハ以テ臣民翼贊ノ道ヲ廣メ永遠ニ遵行セシメ益〻國家ノ丕基ヲ鞏固ニシ八洲民生ノ慶福ヲ增進スヘシ茲ニ皇室典範及憲法ヲ制定ス惟フニ此レ皆

皇祖

L1989
昭24 7.1. 和
國會圖書館藏書

皇室典範

皇宗ノ後裔ニ貽シタマヘル統治ノ洪範ヲ紹述スルニ外ナラス而シテ朕カ躬ニ逮テ時ト俱ニ擧行スルコトヲ得ルハ洵ニ
皇祖
皇宗及我カ
皇考ノ威靈ニ倚藉スルニ由ラサルハ無シ皇朕レ仰テ
皇祖
皇宗及
皇考ノ神祐ヲ禱リ併セテ朕カ現在及將來ニ臣民ニ率先シ此ノ憲章ヲ履行シテ愆ラサラムコトヲ誓フ庶幾クハ
神靈此レヲ鑒ミタマヘ

天佑ヲ享有シタル我カ日本帝國ノ寶祚ハ萬世一系歴代繼承シ以テ朕カ躬ニ至ル惟フニ祖宗肇國ノ初大憲一タヒ定マリ昭ナルコト日星ノ如シ今ノ時ニ當リ宜ク遺訓ヲ明徴ニシ皇家ノ成典ヲ制立シ以テ丕基ヲ永遠ニ鞏固ニスヘシ茲ニ樞密顧問ノ諮詢ヲ經皇室典範ヲ裁定シ朕カ後嗣及子孫ヲシテ遵守スル所アラシム

御名御璽

明治二十二年二月十一日

皇室典範

第一章　皇位繼承

第一條　大日本國皇位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ繼承ス

第二條　皇位ハ皇長子ニ傳フ

第三條　皇長子在ラサルトキハ皇長孫ニ傳フ皇長子及其ノ子孫皆在ラサ

ルトキハ皇次子及其ノ子孫ニ傳フ以下皆之ニ例ス

第四條　皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニス皇庶子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ皇嫡子孫皆在ラサルトキニ限ル

第五條　皇子孫皆在ラサルトキハ皇兄弟及其ノ子孫ニ傳フ

第六條　皇兄弟及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇伯叔父及其ノ子孫ニ傳フ

第七條　皇伯叔父及其ノ子孫皆在ラサルトキハ其ノ以上ニ於テ最近親ノ皇族ニ傳フ

第八條　皇兄弟以上ハ同等內ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニシ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニス

第九條　皇嗣精神若ハ身體ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ前數條ニ依リ繼承ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第二章　踐祚即位

第十條　天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク

第十一條　即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ

第十二條　踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メサルコト明治元年ノ定制ニ從フ

第三章　成年立后立太子

第十三條　天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トス

第十四條　前條ノ外ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トス

第十五條　儲嗣タル皇子ヲ皇太子トス皇太子在ラサルトキハ儲嗣タル皇孫ヲ皇太孫トス

第十六條　皇后皇太子皇太孫ヲ立ツルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス

第四章　敬稱

第十七條　天皇太皇太后皇太后皇后ノ敬稱ハ陛下トス

第十八條　皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃內親王王王妃女王

ノ敬稱ハ殿下トス

第五章　攝政

第十九條　天皇未タ成年ニ達セサルトキハ攝政ヲ置ク

天皇久キニ亙ルノ故障ニ由リ大政ヲ親ラスルコト能ハサルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ攝政ヲ置ク

第二十條　攝政ハ成年ニ達シタル皇太子又ハ皇太孫之ニ任ス

第二十一條　皇太子皇太孫在ラサルカ又ハ未タ成年ニ達セサルトキハ左ノ順序ニ依リ攝政ニ任ス

第一　親王及王

第二　皇后

第三　皇太后

第四　太皇太后

第五　內親王及女王

第二十二條　皇族男子ノ攝政ニ任スルハ皇位繼承ノ順序ニ從フ其ノ女子ニ於ケルモ亦之ニ準ス

第二十三條　皇族女子ノ攝政ニ任スルハ其ノ配偶アラサル者ニ限ル

第二十四條　最近親ノ皇族未タ成年ニ達セサルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ他ノ皇族攝政ニ任シタルトキハ後來最近親ノ皇族成年ニ達シ又ハ其ノ事故既ニ除クト雖皇太子及皇太孫ニ對スルノ外其ノ任ヲ讓ルコトナシ

第二十五條　攝政又ハ攝政タルヘキ者精神若ハ身禮ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ其ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第六章　太傅

第二十六條　天皇未タ成年ニ達セサルトキハ太傅ヲ置キ保育ヲ掌ラシム

第二十七條　先帝遺命ヲ以テ太傅ヲ任セサリシトキハ攝政ヨリ皇族會議

及樞密顧問ニ諮詢シ之ヲ選任ス

第二十八條　太傅ハ攝政及其ノ子孫之ニ任スルコトヲ得ス

第二十九條　攝政ハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シタル後ニ非サレハ太傅ヲ退職セシムルコトヲ得ス

第七章　皇族

第三十條　皇族ト稱フルハ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃内親王王王妃女王ヲ謂フ

第三十一條　皇子ヨリ皇玄孫ニ至ルマテハ男ヲ親王女ヲ内親王トシ五世以下ハ男ヲ王女ヲ女王トス

第三十二條　天皇支系ヨリ入テ大統ヲ承クルトキハ皇兄弟姉妹ノ王女王タル者ニ特ニ親王内親王ノ號ヲ宣賜ス

第三十三條　皇族ノ誕生命名婚嫁薨去ハ宮内大臣之ヲ公告ス

第三十四條　皇統譜及前條ニ關ル記錄ハ圖書寮ニ於テ尚藏ス

第三十五條　皇族ハ天皇之ヲ監督ス

第三十六條　攝政在任ノ時ハ前條ノ事ヲ攝行ス

第三十七條　皇族男女幼年ニシテ父ナキ者ハ宮内ノ官僚ニ命シ保育ヲ掌ラシム事宜ニ依リ天皇ハ其ノ父母ノ選擧セル後見人ヲ認可シ又ハ之ヲ勅選スヘシ

第三十八條　皇族ノ後見人ハ成年以上ノ皇族ニ限ル

第三十九條　皇族ノ婚嫁ハ同族又ハ勅旨ニ由リ特ニ認許セラレタル華族ニ限ル

第四十條　皇族ノ婚嫁ハ勅許ニ由ル

第四十一條　皇族ノ婚嫁ヲ許可スルノ勅書ハ宮内大臣之ニ副署ス

第四十二條　皇族ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條　皇族國籍ノ外ニ旅行セムトスルトキハ勅許ヲ請フヘシ

第四十四條　皇族女子ノ臣籍ニ嫁シタル者ハ皇族ノ列ニ在ラス但シ特旨

ニ依リ仍内親王女王ノ稱ヲ有セシムルコトアルヘシ

第八章　世傳御料

第四十五條　土地物件ノ世傳御料ト定メタルモノハ分割讓與スルコトヲ得ス

第四十六條　世傳御料ニ編入スル土地物件ハ樞密顧問ニ諮詢シ勅書ヲ以テ之ヲ定メ宮内大臣之ヲ公告ス

第九章　皇室經費

第四十七條　皇室諸般ノ經費ハ特ニ常額ヲ定メ國庫ヨリ支出セシム

第四十八條　皇室經費ノ豫算決算檢査及其ノ他ノ規則ハ皇室會計法ノ定ムル所ニ依ル

第十章　皇族訴訟及懲戒

第四十九條　皇族相互ノ民事ノ訴訟ハ勅旨ニ依リ宮内省ニ於テ裁判員ヲ命シ裁判セシメ勅裁ヲ經テ之ヲ執行ス

第五十條　人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判ス但シ皇族ハ代人ヲ以テ訴訟ニ當ラシメ自ラ訟廷ニ出ルヲ要セス

第五十一條　皇族ハ勅許ヲ得ルニ非サレハ勾引シ又ハ裁判所ニ召喚スルコト得ス

第五十二條　皇族其ノ品位ヲ辱ムルノ所行アリ又ハ皇室ニ對シ忠順ヲ缺クトキハ勅旨ヲ以テ之ヲ懲戒シ其ノ重キ者ハ皇族特權ノ一部又ハ全部ヲ停止シ若ハ剝奪スヘシ

第五十三條　皇族濫產ノ所行アルトキハ勅旨ヲ以テ治產ノ禁ヲ宣告シ其ノ管財者ヲ任スヘシ

第五十四條　前二條ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス

第十一章　皇族會議

第五十五條　皇族會議ハ成年以上ノ皇族男子ヲ以テ組織シ内大臣樞密院議長宮内大臣司法大臣大審院長ヲ以テ參列セシム

第五十六條　天皇ハ皇族會議ニ親臨シ又ハ皇族中ノ一員ニ命シテ議長タラシム

第十二章　補則

第五十七條　現在ノ皇族五世以下親王ノ號ヲ宣賜シタル者ハ舊ニ依ル

第五十八條　皇位繼承ノ順序ハ總テ實系ニ依ル現在皇養子皇猶子又ハ他ノ繼嗣タルノ故ヲ以テ之ヲ混スルコトナシ

第五十九條　親王內親王王女王ノ品位ハ之ヲ廢ス

第六十條　親王ノ家格及其ノ他此ノ典範ニ牴觸スル例規ハ總テ之ヲ廢ス

第六十一條　皇族ノ財產歲費及諸規則ハ別ニ之ヲ定ムヘシ

第六十二條　將來此ノ典範ノ條項ヲ改正シ又ハ增補スヘキノ必要アルニ當テハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シテ之ヲ勅定スヘシ

御告文

皇朕レ謹ミ畏ミ

皇祖

皇宗ノ神靈ニ告ケ白サク皇室典範ハ

皇祖

皇宗ノ遺範ヲ明徵ニシ天壤無窮ノ宏基ヲ鞏固ニスル所以ニシテ紹述以來爰ニ十有九年皇朕レ我カ諸昆ト俱ニ之ヲ欽遵シテ敢テ違越スルコトナシ今ヤ國祺倍〻昌隆ニシテ

皇祖

皇宗ノ威靈遐ク四裔ニ顯赫タルノ時ニ膺リ進運ヲ照察シ成典ヲ增益シ以テ尊嚴保維ノ圖ヲ廓ニシ子孫率由ノ道ヲ裕ニスルハ亦

皇祖

皇室典範増補

皇宗聖謨ノ存スル所ニ外ナラス皇朕レ茲ニ皇室典範増補ヲ制定シ仰テ
皇祖
皇宗ノ神祐ヲ禱リ永遠ニ履行シテ愆ラサラムコトヲ誓フ庶幾クハ
神靈此ヲ鑒ミタマヘ

天祐ヲ享有シタル我カ日本帝國皇家ノ成典ハ祖宗ノ洪範ヲ紹述シテ敢テ違フコトアルナシ而シテ人文ノ發展ハ寰宇ノ進運ニ隨ヒ制度ノ燦備ハ條章ノ增廣ヲ必トス是ノ時ニ當リ朕ハ祖宗ノ丕基ヲ永遠ニ鞏固ニスル所以ノ良圖ヲ惟ヒ且憲章ニ由テ以テ皇族ノ分義ヲ昭ニセムコトヲ欲シ茲ニ皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ皇室典範增補ヲ裁定シ朕カ子孫及臣民ヲシテ之ニ率由シテ愆ルコトナキヲ期セシム

御名御璽

明治四十年二月十一日

宮内大臣　副署

國務各大臣　副署

第一條　王ハ勅旨又ハ情願ニ依リ家名ヲ賜ヒ華族ニ列セシムルコトアルヘシ

第二條　王ハ勅許ニ依リ華族ノ家督相續人トナリ又ハ家督相續ノ目的ヲ以テ華族ノ養子トナルコトヲ得

第三條　前二條ニ依リ臣籍ニ入リタル者ノ妻直系卑屬及其ノ妻ハ其ノ家ニ入ル但シ他ノ皇族ニ嫁シタル女子及其ノ直系卑屬ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　特權ヲ剝奪セラレタル皇族ハ勅旨ニ由リ臣籍ニ降スコトアルヘシ

前項ニ依リ臣籍ニ降サレタル者ノ妻ハ其ノ家ニ入ル

第五條　第一條第二條第四條ノ場合ニ於テハ皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經ヘシ

第六條　皇族ノ臣籍ニ入リタル者ハ皇族ニ復スルコトヲ得ス

第七條　皇族ノ身位其ノ他ノ權義ニ關スル規程ハ此ノ典範ニ定メタルモノノ外別ニ之ヲ定ム

皇族ト人民トニ涉ル事項ニシテ各、適用スヘキ法規ヲ異ニスルトキハ前項ノ規程ニ依ル

第八條　法律命令中皇族ニ適用スヘキモノトシタル規定ハ此ノ典範又ハ之ニ基ツキ發スル規則ニ別段ノ條規ナキトキニ限リ之ヲ適用ス

憲法發布勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス

惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚リ我カ帝國ヲ肇造シ以テ無窮ニ垂レタリ此レ我カ神聖ナル祖宗ノ威德ト並ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ以テ此ノ光輝アル國史ノ成跡ヲ貽シタルナリ朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ其ノ朕カ意ヲ奉體シ朕カ事ヲ奬順シ相與ニ和衷協同シ益〻我カ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ此ノ負擔ヲ分ツニ堪フルコトヲ疑ハサルナリ

大日本帝國憲法

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ卽チ朕カ祖宗ノ恵撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ康福ヲ增進シ其ノ懿德良能ヲ發達セシメムコトヲ願ヒ又其ノ翼贊ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ乃チ明治十四年十月十二日ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ循行スル所ヲ知ラシム

國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將來此ノ憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ愆ラサルヘシ

朕ハ我カ臣民ノ權利及財產ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍內ニ於テ其ノ享有ヲ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス

帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有效ナラシムルノ期トスヘシ

將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見ルニ至ラハ朕

及朕カ繼統ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ

朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ

御名御璽

明治二十二年二月十一日

國務各大臣及樞密院議長　副　署

大日本帝國憲法

第一章　天皇

第一條　大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス

第二條　皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス

第三條　天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

第四條　天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ

第五條　天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ

第六條　天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス

第七條　天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス

第八條　天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス

此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ

第九條　天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民

ノ幸福ヲ增進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條　天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ揭ケタルモノハ各〻其ノ條項ニ依ル

第十一條　天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

第十二條　天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

第十三條　天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

第十四條　天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條　天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス

第十六條　天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

第十七條　攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

第二章　臣民權利義務

第十八條　日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第十九條　日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラレ及其ノ他ノ公務ニ就クコトヲ得

第二十條　日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

第二十一條　日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス

第二十二條　日本臣民ハ法律ノ範圍內ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス

第二十三條　日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ

第二十四條　日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハルヽコトナシ

第二十五條　日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セラルヽコトナシ

第二十六條　日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ祕密ヲ侵サルヽコトナシ

第二十七條　日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サルヽコトナシ
公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第二十八條　日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信敎ノ自由ヲ有ス

第二十九條　日本臣民ハ法律ノ範圍內ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス

第三十條　日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得

第三十一條　本章ニ揭ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ

第三十二條　本章ニ揭ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサルモノニ限リ軍人ニ準行ス

第三章　帝國議會

第三十三條　帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

第三十四條　貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十五條　衆議院ハ選擧法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十六條　何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス

第三十七條　凡テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス

第三十八條　兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各〻法律案ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條　兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス

第四十條　兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各〻其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス

第四十一條　帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

第四十二條　帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ

第四十三條　臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ

臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

第四十四條　帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ

衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラルヘシ

第四十五條　衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選

擧セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ

第四十六條　兩議院ハ各〻其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第四十七條　兩議院ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十八條　兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ祕密會ト爲スコトヲ得

第四十九條　兩議院ハ各〻天皇ニ上奏スルコトヲ得

第五十條　兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコト得

第五十一條　兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ揭クルモノヽ外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得

第五十二條　兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其

ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ

第五十三條　兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラルヽコトナシ

第五十四條　國務大臣及樞密顧問ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

第四章　國務大臣及樞密顧問

第五十五條　國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス

凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

第五十六條　樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

第五章　司法

第五十七條　司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條　裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラルヽコトナシ

懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條　裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第六十條　特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條　行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス

第六章　會計

第六十二條　新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但シ報償ニ屬スル行政上ノ手數料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

第六十三條　現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス

第六十四條　國家ノ歲出歲入ハ每年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ」

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第六十五條　豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

第六十六條　皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ每年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來

增額ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協贊ヲ要セス

第六十七條　憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歲出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歲出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス

第六十八條　特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協贊ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條　避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

第七十條　公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ內外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第七十一條　帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條　國家ノ歲出歲入ノ決算ハ會計檢査院之ヲ檢査確定シ政府ハ其ノ檢査報告ト倶ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

會計檢査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第七章　補則

第七十三條　將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ

此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各〻其ノ總員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七十四條　皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス

皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十五條　憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十六條　法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用ヰタルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵由ノ効力ヲ有ス

歲出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

小引

一。本書今初テ之ヲ印刷ニ付スルモ、實ハ二十年來ノ舊稿ナリ。明治二十二年三月予初テ我カ憲法ヲ大學ニ講釋セシヨリ、爾來毎年例ヲ爲シテ今ニ至レリ、其ノ筆記亦頗ル世ニ行ハル。然レトモ其ノ筆記ナル者、詳畧宜キヲ得ス誤謬甚多シ。故ニ近年數回大學ノ講義ヲ速記セシメ、之ニ依リテ舊來講筵ノ手稿ヲ補綴シ、以テ本書ヲ成シタルナリ。』

一。予十五年前、國民教育ノ爲ニ、憲法大意及愛國心ノ二小冊子ヲ公ニシタリ、一ハ我カ國體、政體ノ要領ヲ示シ、一ハ我カ固有ノ國體及忠孝ノ觀念ハ祖先崇拜ノ大義ニ淵源スルヲ明カニス。要旨ハ全ク此ノ小冊子ニ盡ク、然レトモ學生ハ之ヲ簡畧ニ失スト爲シ尚詳細ヲ望ム者アリ、故ニ茲ニ舊來ノ講義ヲ公ニシテ其ノ望ニ副フナリ。』

一。大學ノ憲法講義ハ一週四時間、一學年ニ限ル、本書ノ程度亦之ニ從フ

一。簡潔直裁ヲ旨トシ、一切ノ歷史、立法例、學說等ノ援引ヲ省キ、一意、現行法理ノ要點ヲ摘ムニ專ナルモ、仍時日ノ足ラサルヲ覺ユルハ予ノ大學ニ於ケル永年ノ實驗ナリ。本書ハ大典ノ成文ニ表ハルルノ法理ノ提要タルニ過キス、源ヲ探ヲ、又諸說ヲ引キテ、以テ其ノ詳細ヲ盡スコトハ本書ノ企ツル所ニ非サルナリ。抑、憲法ノ妙味ハ其ノ乾燥ナル法理ニ在ラス、寧、間接機徼ノ政治的作用ニ存ス、之ヲ辯明シテ以テ憲法ノ精神ヲ發揮スルコトハ、予之ヲ別ノ著作ニ讓ル。』

一。一國ノ憲法ハ一國固有ノ國體、政體ノ大法ナルカ故ニ、一國獨立ノ解釋アルヘシトスルハ予ノ持論ナリ。必シモ好ンテ異ヲ立ツルヲ可トスルニ非ス、我ニ獨立自信ノ見解ナク、內外ヲ混同シ、漫ニ外國ノ事例及學說ヲ援引シテ之ヲ論證トスルコトヲ許ササルヲ謂フナリ。從來我カ學界ニ一種ノ流弊アリ、學理ハ國境ヲ知ラサルノ義ヲ誤解シ、憲法ナルモ亦內外共通ノ法理アルカ如ク想像シ、憲法ハ一國ノ歷史ト政治トノ結晶ニシテ必シモ彼我共通ニ非サルコト却テ即チ其ノ學理ノ示ス所タルコトヲ知ラサル者アリ。予ハ此ノ見地ヨリシテ一切外國ノ事例及學說ニ拘泥セサルヲ主義トス。然レトモ、內外混同ハ既ニ久シク人心ニ浸潤ス、故ニ本書ニ於テハ往往彼ヲ引キ我ニ照シ、以テ異同ヲ辯明スルニ非サレハ誤解ヲ正スコト能ハサルモノアルナリ、彼ヲ批議スルハ固ヨリ本意ニ反スト雖ヲ得サルニ出テタルナリ。』

一。憲法制定ノ前後、世論ノ危激ナリシコトハ今ノ學生ノ想像ノ及フ所ニ非ス。君位主權ハ立憲政體ト相容レサルモノノ如ク想像シ、君位ヲ虛名トシ其ノ權ヲ國會ニ移サントシ、或ハ公然疑ヲ我カ千古ノ國體ニ懷クアリ、予ノ當初、主ラ國體主權ノ論ニ於テ世上ト戰ヒシハ此レカ爲ナリ。憲法實施ノ後、政黨者流及之ニ雷同スルノ學者ハ、之ヲ英國風ノ

議院政黨內閣政治ノ意味ニ解決セントス、是レ我カ大憲ノ文字及精神ノ忍容スル所ニ非ス。抑ゝ國政ヲ總括スルノ政府大臣ヲ、議院ニ隷屬スルモノト解スルト、大權ニ隷屬スルモノト解スルトハ、憲法問題トシテ極メテ重大ナリ、由來大臣責任ノ論ノ喧シキハ此レニ由ル。故ニ予ハ此ノ解釋ニ於テ亦大ニ世論ト戰フノ己ヲ得サルニ出テタルナリ。事幸ニシテ皆過去ニ屬ス、今ニシテ從來ノ講義筆記及手稿ヲ復讀スルニ我カ國體政體ノ特色ヲ發揮セントスルニ急ナル、言說常ニ平平坦坦タルコト能ハス、往往ニシテ論難排邪ノ口調アルヲ免レサルモノアリ、是レ皆當時ノ餘音ナルノミ、今潔癖ヲ謂フテ一一之ヲ改メス、後ノ之ヲ讀ム者或ハ之ヲ異トスルコトアラン、請フ諒セ。』

一。本書述フル所ノ法理ノ細目ハ大體ニ於テ世上ニ異論少キヲ期ス、若異論アラハ、蓋細目ノ論ニ非ス、抑ゝ憲法ナル者ノ觀念ノ相異ニ出ツルナラン。予ハ之ヲ君主治國ノ大法ナリト觀念ス、故ニ其ノ解釋總テ皆此ノ前提ニ隨フナリ。歐洲一派ノ、憲政ト謂フノ觀念ハ、國會ト君主トノ兩頭對峙ノ權力競爭タルニ在リ、憲法ハ此ノ當事者間ノ妥協ノ規約ナリトス、故ニ其ノ解釋ハ總テ亦其ノ前提ニ隨フナリ。此ノ義、憲法違反ト謂フコトノ彼我ノ觀念ニ於テ例證最明白ナリトス。彼ニ在リテハ之ヲ絕對ノ國法違反ナリト視ルヨリハ寧妥協ノ違反ニシテ國會ノ權利ノ傷害ナリト見做ス、故ニ政府大臣ノ違憲ノ責ハ議院之ヲ問フモノトスルナリ。昨年十一月、豫算議權ノ問題ニ關シ、英國ノ大法官其ノ上院ニ演說シ「此レ合法ナリト雖違憲ナリ」ト云ヘルノ語、ヨク彼ノ觀念ヲ告白セリ。我ニ在リテハ之ヲ國法ノ違犯トス、故ニ違憲ノ罪ハ政府タリ議院タルヲ問ハス、國家ニ對スルノ絕對ノ非行トス、政府ノ議院ニ對シテノミ犯シ能フノ當事者間ノ私犯ノ意味アル者ニハ非サルナリ。

蓋、我ハ憲法正面ノ法理ヲ觀、彼ハ其ノ間接機微ノ政治作用ヲ謂フモノノ如シ。法理細目ノ異論ハ多ク此ノ法理ト政治トノ混同ヨリ來ル、讀者請フ、予ノ憲法法理ノ論ハ、先ツ予ノ取ル所ノ前提ニ於テ之ヲ解スルコトヲ爲セ、其ノ前提ノ當否ハ亦別ニ忌憚ナク之ヲ論シテ可ナリ。』

一。本書特ニ重キヲ我カ固有ノ國體ノ辯明ニ置ク、此レ我カ立國ノ大本ナレハナリ、且ツ亦歐洲立君ノ國其ノ實大概民主主義ニ傾向スル者トノ之ヲ混スルヲ欲セサレハナリ。又重キヲ三權ノ憲法上ノ對立併行ノ解ニ置ク、此レ我カ政體ノ根軸タレハナリ、且ツ亦歐洲立憲ノ制、概ネ立法權最高全能ノ主義ニ則ル者ト之ヲ混スルヲ欲セサレハナリ。權力分立ノ論、今ノ歐洲學者ノ捨テ顧ミサル所ニシテ、予ハ却テ之ニ依リテ立憲政體ノ本領ヲ支持セントス、陳腐ノ論ニ似テ予ノ解實ハ新意アリ。

一。今ノ所謂憲政ノ通弊ハ大臣專制ヲ株守スルニ非サレハ即チ議院專制ニ流ルルニ在リ、立憲當初ノ大義タル分權シテ專制ヲ防クノ精神ハ人多ク之ヲ輕ンス、故ニ世上ヲ警戒スルノ要アルヲ念フナリ。』

一。本書ノ說述、之ヲ本文ト注疏トニ分チタルハ他意アルニ非ス、敎場ノ講演ニ於テ、要旨ノ必ス學生ノ筆錄シテ記臆ニ留ムヘキ者ト、其ノ意義精神ヲ敷衍シ印象ヲ深カラシムル者トヲ分ツハ、聽講者ノ爲ニ便ナルニ依ル、之ヲ書冊トシテハ實ハ其ノ用ナシ、唯舊稿ヲ改メサルノミ。』

一。本年二月予病患アリ爲ニ全ク大學半學年ノ講義ヲ廢ス、贖職甚之ヲ遺憾トス、故ニ病ヲ鎌倉ノ寓居ニ養フノ間ニ於テ急ニ舊稿ヲ整理シ、講義ニ代ヘ之ヲ學生ニ示サントス、是レ此ノ書冊ノ成リ且ツ之ヲ公ニスル所以ナリ。』

明治四十三年八月十三日鎌倉ニ於テ

穗積八束

憲法提要目次

第一編　國家……一

第一章　國家……一

國家……一

團體……一

血統團體……一

平等團體。權力團體……二

政治團體……五

民族……八

領土……一一

主權……一六

……一九

主權ノ要素……二一
國家ノ單一不分……二四
國家自主ノ生存……二九
國家ノ意思……三三
國家ノ目的……三六
國家ノ人格……四二
國家ノ社會的及法理的兩面ノ觀念……四八
第二章　國體……五二
國體……五二
國家ノ體制……五三
權力……五六
權力服從ノ關係……六〇

國家ノ權力。自然意思法律意思ノ分合……六四
國家主權ノ所在……六九
國民ノ確信……六九
國體ノ別……七三
君主國體……七七
君位ノ世襲繼承……八七
民主國體……八九
第三章　政體……九八
政體……九八
政體ノ別……一〇一
專制政體ト立憲政體トノ別……一〇三
權力分立ノ主義……一〇七

立法權、行政權、司法權……一〇九
權力分立ノ意義……一一三
專制政體……一一八
立憲政體……一二〇
立憲政體ノ利害……一二三
議院政治……一二六
大權政治……一二九
分權政治……一三一
第四章　憲法……一三六
憲法……一三六
憲法ノ性質……一四〇
憲法ノ用……一四六

憲法ノ實質及形式……一四九
憲法ノ形式的効力……一五二
憲法ト謂フ語ノ特種ノ用例……一五六
我カ憲法……一五九
皇室典範……一六二
憲法及典範ノ改正……一六五
典範ト憲法トノ關係……一七二
憲法ノ綱目……一七五
憲法ノ精神……一七八
第二編　統治ノ主體……一八三
第一章　皇位……一八三
皇位……一八三

立國ノ大本……一八四
統治ノ大權……一八八
皇位ノ法理觀念……一九五
皇位ト國家トノ合體……一九八
神聖不可侵……二〇四
皇位及憲法……二〇八
君主機關說……二一三
皇位及主權ノ體用……二一六
我カ國體ノ本領……二二〇
第二章　皇位繼承……二二三
皇位繼承……二二三
繼承ノ大義……二二四

繼承ノ範圍……二三一
繼承ノ順序。直系繼承……二三五
傍系繼承……二三七
繼承ノ順序ノ變換……二四二
踐祚。神器……二四四
即位禮及大嘗祭……二四七
建元……二四八
第三章　攝政……二五〇
攝政……二五〇
攝政ヲ置クノ場合……二五四
攝政ノ權能……二五六
攝政ノ順位……二五七

攝政ノ讓任……二五九
攝政順位ノ變換……二六〇
第四章　皇室……二六三
皇室……二六三
皇位……二六五
皇室一家……二六五
皇族……二六八
皇族ノ範圍……二七〇
皇太子皇太孫……二七〇
親王、內親王、王、女王……二七〇
皇族ノ臣籍降下……二七二
皇族監督ノ大禮……二七五

成年……二七七
立后、立儲……二七七
敬稱……二八〇
太傅……二八一
世傳御料……二八二
皇室經費……二八三
皇族ニ係ル民事訴訟及刑事訴追……二八五
懲戒……二八七
禁治產……二八七
皇族會議……二八八
皇室及皇族ニ係ル事項ニ對スル法則ノ適用……二九〇
皇室令……二九二

第三編　統治ノ客體……二九五
第一章　總論……二九五
統治ノ客體……二九五
主體客體ノ分界……二九六
統治權ノ意義……三〇〇
統治及保護……三〇二
國家構成ノ要素及統治ノ主體客體ノ別……三〇四
統治權及其ノ客體……三〇六
個個ノ土地、個個ノ人……三〇八
統治客體ノ觀念ノ變遷……三一〇
主體客體ノ分離合同……三一四
第二章　領土……三一八
領土……三一八
統治權ノ絕對無限ノ普及……三二〇
權力範圍及領土……三二〇
領土ノ伸縮……三二〇
國境ノ變更……三二四
領土ト憲法トノ關係……三二八
領土權……三三二
領土權及所有權……三三六
領土權ノ目的及作用……三三九
國民ノ安宅……三三九
第三章　臣民……三四三
臣民……三四三

國家構成ノ分子……二四五
絕對ノ從屬、無限ノ服從……二四八
社會進化ノ要件……二五〇
個個ノ人及統治ノ客體……二五二
國籍……二五四
第四章　臣民ノ權能……二六〇
臣民ノ權能……二六〇
服從及保護、人格及權利……二六二
人格及權利……二六四
人ノ法上ノ價値……二六五
公權私權ノ別……二六九
公權ノ三態樣。請求權、自由權、參政權……二七二

憲法上ノ自由權……二七九
憲法上ノ臣民義務……二八二
臣民ノ權利義務及憲法上ノ立法事項……二八六
第四編　統治ノ機關……二九一
第一章　總論……二九一
憲法上ノ統治機關……二九一
統治機關ノ意義……二九四
統治ノ主體ト其ノ機關及機關相互ノ關係……二九八
機關ノ權限……四〇二
機關ノ構成……四〇五
憲法上ノ三機關ノ分立……四〇九
第二章　帝國議會……四一一

帝國議會……四一一
帝國議會ノ地位……四一七
國民代表……四二二
會議ノ府……四二六
帝國議會ノ構成及權限……四二八
大政協賛……四三二
議會ノ立憲的作用……四三六
第三章　帝國議會ノ構成……四三九
兩院制度……四三九
貴族院令及選擧法……四四四
貴族院ノ組織……四四七
衆議院ノ組織……四五二

選擧ノ手續……四六一
選擧區……四六一
投票區……四六二
選擧名簿……四六五
投票……四六六
選擧會……四七一
當選人……四七一
選擧ニ關スル訴訟……四七二
議會ノ召集、開會、閉會、停會及衆議院ノ解散……四七四
議院行動ノ形式……四七八
兩議院ノ關係及議院ト政府トノ關係……四八六
議員ノ特權……四九一

第四章　帝國議會ノ職權……四九三
帝國議會ノ職權ノ範圍……四九三
議會ノ立法協賛……四九三
議會ノ豫算協賛……四九六
豫算議定權ノ制限……五〇二
憲法ノ明文ニ依ル豫算議定權ノ制限……五〇二
豫算ノ不可分……五〇九
豫算ノ否決……五一〇
第五章　政府……五一三
政府……五一三
政府ノ分立……五一六
政府ノ憲法上ノ組織……五二六
政府ノ憲法上ノ地位……五二七
第六章　國務大臣……五三〇
國務大臣ノ地位……五三三
國務大臣ノ輔弼……五三七
國務大臣ノ副署……五四〇
國務大臣ノ責任……五四三
國務各大臣ノ同列同權……五四九
國務大臣ノ任免黜陟……五五六
第七章　樞密顧問……五五九
樞密顧問ノ地位……五六七
樞密顧問ノ職權……五七一
諮詢事項……五七一

第八章　裁判所……五八二
裁判所ノ地位……五八二
裁判所ノ憲法上ノ權限……五八六
裁判所ノ構成及裁判ニ關スル憲法上ノ原則……五九〇
通常裁判所ノ種類……五九二
區裁判所……五九二
地方裁判所……五九五
控訴院……五九六
大審院……五九七
檢事……五九八
執達吏、公證人、辯護士……五九九
第五編　統治ノ形式……六〇三

第一章　統治權總論……六〇三
統治權……六〇三
統治……六〇三
統治ノ目的……六〇四
統治權ノ性格……六〇八
統治權ノ行動……六一二
統治權行動ノ目的及形式……六一六
統治權行動ノ憲法上ノ形式……六一八
權力ノ分立……六二〇
法治主義……六二三
本編ノ主旨……六二七
第二章　大權……六三〇

憲法上ノ三權ノ分派……六二〇
大權……六二〇
親裁專斷及補弼諮詢……六二三
親裁專斷及委任ノ自由……六二五
大權ハ憲法上ノ權力ナリ……六四一
大權ハ權利ニ非ス……六四五
大權ノ獨立……六五一
第三章　大權ノ範圍……六五七
大權ノ範圍……六五七
大權事項……六六〇
大權事項ノ列記……六六五
大權事項及法律……六七〇
大權事項ノ委任……六七三
大權行動ノ自由範圍……六八〇
第四章　命令……六八四
命令……六八四
命令ノ公式……六八六
命令ト法律トノ別……六八八
命令ノ權能範圍……六九一
命令ノ形式ニ伴フノ效力……六九四
命令ノ種類……六九八
命令ノ效力ノ異同……六九八
大權行使ノ形式……七〇二
第五章　大權命令……七〇六

大權命令……七〇六
大權命令ノ効力……七一〇
大權命令及法律……七一三
大權命令及他ノ命令……七一六
大權命令ノ公式……七一八
第六章　法律ニ代ルノ命令……七二一
法律ニ代ルノ命令……七二一
此ノ勅令ヲ發スルノ要件……七二四
此ノ勅令ノ議會提出及其ノ承諾……七二八
此ノ勅令ヲ發スルノ範圍……七三三
此ノ勅令ノ廢止變更……七三四
憲法第八條ノ精神……七三七

第七章　行政命令……七四五
行政命令……七四五
憲法第九條……七四八
行政命令ノ本領……七五一
行政命令ノ効力……七五四
之ヲ發シ又ハ發セシムルノ大權……七五八
第八章　條約……七六三
條約……七六三
條約ノ締結……七六五
條約ノ効力……七六八
條約及法令……七七一
條約ノ履行……七八〇

條約ノ事項……七八四
第九章　立法權……七八七
立法權ノ概念……七八七
立法及統治權……七八七
立法權ハ憲法上ノ權力ナリ……七八七
權力分立……七八八
立法權ハ法則制定ノ權力ナリ……七九二
立法權及議會ノ協贊……七九七
立法權ノ委任……八〇一
第十章　立法權ノ範圍……八〇六
立法權行動ノ範圍……八〇六
立法事項及自由事項……八〇九

立法事項……八一一
立法事項ノ委任……八一四
立法事項ノ列記及自由權ノ保障……八一六
立法事項ノ列記……八一九
自由事項……八二四
自由事項ニ於ケル法令ノ効力……八二四
立法權ノ法則設定以外ノ便用……八二六
第十一章　法律……八三〇
法律……八三〇
法律ノ公式……八三二
法律ノ實質……八三四
立法ノ手續……八三八

提出……八三八
議定……八三八
裁可……八三八
公布……八三九
法律ノ實質及形式……八四八
法律ノ形式ニ伴フノ效力……八五〇
法律ノ形式的效力ハ立法權ノ效力ナリ……八五四
法律ノ實質ニ伴フノ效力……八六一
法律ノ廢止、改正、停止、變更……八六六
第十二章　豫算……八七〇
豫算……八七〇
豫算、及議會ノ協贊……八七六

豫算ノ內容ニ關スル憲法ノ規定……八八〇
豫算ノ議定……八八六
豫算ノ裁可、公布、施行……八八九
豫算ノ不成立……八八九
豫算ノ性質……八八九
豫算ノ效力……八九三
豫算發布ノ公式……八九七
豫算ト法律勅令トノ關係……九〇一
財政ニ關スル憲法ノ特別規定……九〇一
歲出歲入ノ決算及會計檢查……九〇四
第十三章　司法權……九〇八
司法權……九一一

訴訟。民事。刑事。裁判……九一四
司法權ノ行使……九一九
司法權ノ獨立……九一九
司法判決ノ實質的及形式的効力……九二四
第十四章　行政……九三〇
行政ノ觀念。行政及大權……九三〇
行政ノ本領……九三五
行政及官府……九三七
官府及其ノ權限ノ意義……九三九
行政及權力行動……九四三
行政行爲……九四三
命令權……九四四

憲法提要目次 畢

行政及官制關係……九四七
統治權及監督權……九五二
行政裁判……九五二

大審院
東京控訴院
判事
印

憲法提要

第一編 國家

第一章 國家

國家 團體

國家ハ一定ノ民族、一定ノ領土ニ據リ、獨立ノ主權ヲ以テ之ヲ統治スルノ團體ナリ。』

人ノ相依リテ合同ノ生存ヲ全ウスル之ヲ團體ト謂フ。合同生存ハ人ノ天性ナリ、個獨ノ人絕對ニ孤立セハ其ノ類即チ亡ヒンノミ、故ニ家ヲ成シ、部落ヲ成シ、國ヲ成シ、以テ其ノ合同ノ生存ヲ全ウスルナリ。合同ノ生存ヲ全ウスルハ即チ個獨ノ生存ヲ全ウスルノ所以タリ。個人ノ生存ハ團

體ノ生存ニ同化スルニ由リテ保全セラレ、團體ノ生存ハ個人ノ生存ニ同化スルニ由リテ保全セラル。蓋團體組織ハ人類生存ノ要件ヲ爲ス者ナリ。』

血統團體

團體ノ存立ハ歷史ノ事實ナリ。父母子孫相依リテ家ヲ成スハ人類自然ノ通性ナリ恐ラクハ此レ團體元始ノ形式ニシテ社會組織ノ單位ナラン。此ノ原形ニ依リ、此ノ單位ヲ重子、家ヲ聯子テ部落ヲ成シ、部落ヲ聯子テ國ヲ成セルハ史跡ノ之ヲ明徵スル所ナリ。蓋人類ノ親、同血ノ親ニ歸ス、血緣相近キ者先ツ依リテ團結ヲ爲スハ勢ノ自然ナリ。矇昧ノ世其ノ結合ノ範圍甚小ナリ、同血ノ親其ノ眼界尙狹ク一家族ノ團障ヲ離レテハ四面皆相鬪フノ敵タレハナリ。文化ノ漸ク行ハルルニ至リテハ其ノ結合ノ範圍稍〻大ナリ、同祖ノ自覺稍〻廣ケレハナリ。遂ニ其ノ遠祖ヲ同フスルノ子孫、民族トシテ團結シ國家ヲ成スニ至ル。蓋同血ノ親、能ク同化シテ

鞏固ナルノ家國ノ制ヲ爲シ、以テ歷史ノ上ニ生存シテ今ニ至レルハ、血統團體組織ノ、能ク社會進化ノ理則ニ合ヒ、適者殘存ノ要件ヲ全ウシタルヲ證明スルモノナリ。』

按スルニ、人間、本、同類、世界ヲ通シテ一國一家ヲ爲スハ想像ノ及フ能ハサル所タルニハ非ス。然レトモ歷史ハ未タ此ノ理想ノ境域ニ達セス今ノ大勢ハ尙民族建國ノ世ニ屬スルナリ。而シテ民族ノ別、本、絕對ノ團障ナシ、稍〻近キ者稍〻遠キ者ト分カルルノミ。故ニ異種ノ民、境遇ニ由リテ混シテ一族ヲ爲シ、同種ノ民、事情ニ由リ分カレテ別國ヲ爲ス、固ヨリ絕對ノ範圍アルニ非サルハ亦歷史ノ證明スル所ナリ。唯、今ノ社會進化ノ程度ニ於テハ、尙未タ民族的結合ヲ以テ立國ノ本位トスルヲ生存競爭ニ適合スルモノトスルノ大勢アルノミ。抑〻民族ト謂フ觀念ハ固ヨリ人類絕對ノ區別ニ非ス、血統稍〻近キ者其ノ居ヲ同フシ相交通ス

ルニ由リテ體格、人情、言語、風俗ノ相同化シテ以テ他境ノ人ニ異ナルノ彩樣アルヲ謂フナリ。故ニ國ヲ同フスル久シケレハ異種ノ民混シテ同化シ、國ヲ異ニスル久シケレハ同種ノ民分カレテ異族ヲ爲ス。民族ノ發展ト國家ノ存立トハ因ヲ爲シ果ヲ爲シ、以テ同化スルノ趨勢アルモノナリ。古來達觀ノ人、民族異同ノ狹隘ノ念ヲ斥ケ、之ヲ人間同類ノ本ニ歸シ、家國ノ藩障ヲ撤去シ、世界ヲ抱合シテ一團ト爲スノ敎義ヲ唱ヘタルコト少カラス、其ノ効果ハ宗敎トシテ稍ゝ見ルヘキモノアルモ政治トシテ未タ成功シタルコトナキナリ。蓋今ノ人類ノ生存競爭ノ程度ニ於テハ、未タ民族ノ異同ヲ棄テ、國境ヲ撤シ、世界一家ヲ爲スヲ許ササルモノアルニ由ルナリ。今ノ世界的生存競爭ノ中ニ在リテハ、吾人ハ尙民族的國家組織ノ城壁ニ依ラサルヘカラサルハ明カナリ。世ノ社會主義ヲ鼓吹スル者、動モスレハ民族結合ノ鞏固ナル觀念ヲ指シテ狹隘ニシテ非人類的ナリトナシ、家國組織ヲ視テ蠻風ノ遺物ナリトナシ、以テ愛國ノ念ヲ輕侮シ、無政府ノ天國ヲ夢ミル者アリ、今ノ世ニ在リテ之ヲ謂フ民族ノ自殺ナリ、戒メサルヘケンヤ。』

平等團體 權力團體

團體ハ群衆ノ謂ニ非ス。群衆ハ個個ノ人、個個ノ目的ヲ以テ、個個ノ行動ヲ取ル者ノ、偶然時ト所トヲ同フシテ存在スルニ外ナラス。團體トハ統一アルノ組織ヲ謂フ、蓋目的ヲ同フスルニ於テ統一アリ、行動ヲ共ニスルニ於テ組織アルナリ。而シテ之ヲ統一シ之ヲ組織スルノ形式體樣ニ視テ更ニ之ヲ二種ニ分ツコトヲ得ヘシ。其ノ團結ハ各人平等ノ權ヲ以テスルノ自由意思ノ投合ニ成ル者アリ、假リニ之ヲ平等團體ト謂ハン。又其ノ團結ハ强大ノ權力ノ在ルアリ、衆多ノ之ニ服從スルニ由リテ成ル者アリ、假リニ之ヲ權力團體ト謂ハン。家ト謂ヒ國ト謂フハ此ノ權力團體

ノ類ニ屬スルナリ。』

按スルニ、團體ノ團體タルハ目的ノ統一ト行動ノ一致トニ在リ、絶對孤立ノ人、偶然時ト所トヲ同フシテ併立スルモ團體ヲ成ササルハ言ヲ待タサルナリ。人類ハ實ハ絶對孤立シテハ生存シ能ハサル者タリ故ニ社會生活ハ人ノ天性トス。既ニ社會生活ト謂フトキハ、目的ノ相同シキ所アリ、行動ノ相通スル所アルヲ意味ス。而シテ社會變遷ノ或程度ニ達スルトキハ、其ノ目的ノ統一ト其ノ行動ノ一致トカ社會生活ノ至重至大ノ要件ト見做サレ、個人個個ノ目的及行動ノ外ニ、更ニ其ノ上ニ超越シテ、夫レ自身ニ客觀的ニ存立スル者ト見做サルニ於テ、始テ獨立團體ノ觀念アルナリ。法ハ此ノ發達セル社會的合同生活ノ體樣ニ視テ、團體ハ單純ナル群衆ニ非ス、團體トシテ個人ノ上ニ超越獨立スルノ自主ノ本體ヲ爲ス者ナリト觀念スルナリ。實體ヨリ見レハ單純ナル社會生活トハ絶對ノ分別アルニ非ス、發達ノ程度ノ等差ナリ、團體ハ社會生活ノ最濃密ナル者ナリ。』

團體ノ團體タルノ所由タル目的ノ統一ト行動ノ一致トハ其ノ分子タル各個人ノ自由平等ナル約束ニ由リテ成立シ且ツ維持セラルルモノト觀念セラルルトキハ即チ平等團體タリ。其ノ目的ノ統一ト行動ノ一致トハ其ノ分子タル各個人相互ノ自由意思ノ約束ニ根由セス、社會的ニ優越強大ナルノ權力ノ强制ノ作用ニ成リ、且ツ之ニ由リテ維持セラルルモノト觀念セラルルトキハ即チ權力團體タリ。所謂平等團體ニ於テハ分子ト團體トノ關係ハ分子相互ノ平等自由ノ關係ニ分解セラル。所謂權力團體ニ於テハ分子ト團體トノ關係ハ分子相互ノ對等ノ關係ニ非スシテ團體ノ優勝ナル權力ニ從屬スルノ關係タリ。平等團體ニハ治者被治者ノ別ナシ、權力團體ニハ即チ之アリ、一ハ平等關係

ニ成リ、一ハ權力關係ニ成ル、二者ノ別ヲ謂フハ此ノ點ニ存スルナリ。』

目的ノ統一ト行動ノ一致トハ團體ノ本領タリ。而シテ其ノ目的ノ種類、分量、範圍ノ如何ニ由リテ亦團體ヲ類別スルコトヲ得。祭祀、宗教ノ爲ニスルアリ、學術、技藝、慈善、營利ノ爲ニスルアリ、又政治ノ爲ニスルアリ、固ヨリ其ノ種ニ於テ限定アルコトナシ。今茲ニ國家ノ何タルヲ辯明スルノ爲ニハ政治團體トノ別ヲ明白ニスルコトヲ要スルナリ。』

政治團體

政治トハ權力ヲ以テ社會ヲ支配スルノ謂ナリ。社會ヲ支配スルトハ安寧福利ノ保持ノ爲ニ社會百般ノ事物ヲ總括的ニ支配スルノ意ニシテ、其ノ支配ノ範圍ハ先天的ニ或特種ノ事物ニ限定セラレサル所是レ其ノ本領タリ、而シテ支配スルトハ權力ヲ以テ之ヲ指揮シ料理スルノ義タルハ言ヲ待タサルナリ。權力ノ指導ノ觀念ナク、自然力ニ由リ社會自ラ社會ノ秩序ヲ全ウスルヲ得ハ即チ政治ノ觀念アルモ其ノ目的ノ社會特種ノ事物關係ニ限定セラルルトキハ即チ政治ノ觀念ナカラン、宗教ノ首長カ教權ヲ以テ信徒ニ臨ムカ如キハ宗教團體ニシテ政治團體トハ謂ハサルナリ。此レニ由リテ之ヲ觀レハ蓋政治團體ト非政治團體トノ區別ノ標準ハ、社會ノ百般ノ事物關係ヲ總括的ニ支配スルノ目的ト、其ノ目的ノ特定ノ事物關係ニ限定セラルルトノ點ニ求ムヘキニ似タリ。政治團體ハ其ノ目的ノ列擧限定スヘカラスシテ包括的ナルコト自然人ノ目的ノ包括的ニシテ列擧限定スヘカラサルカ如シ、一言以テ之ヲ掩ヘハ生存ヲ欲スルノミ。是レ其ノ特色タル所ナリ。』

按スルニ、前ニ謂フ平等團體ト權力團體トノ別ハ人ノ團體ニ從屬スルノ關係ニ視テ之ヲ爲セルナリ。茲ニ謂フ政治團體ト非政治團體トノ

別ハ團體存立ノ目的ニ視テ之ヲ爲セルナリ。團體存立ノ目的カ社會生活ノ或方面ニ限ラルルニ非スシテ總括的ニ社會百般ノ事物ヲ通シテ之ヲ支配スルニ在ルトキハ之ヲ政治團體ト謂フナリ。社會百般ノ事物ヲ支配スルトハ社會ノ平和ト幸福トヲ保全スルコトヲ目的トスルノ義ニ外ナラスシテ、此ノ目的ノ爲ニ權力ノ行動スルヲ指稱シテ政治ト謂ヘルナリ。而シテ社會ノ平和ト幸福トヲ保全スルハ即チ社會團體ノ生存ヲ欲スルナリ。家國ノ制ハ政治團體ニ屬ス、其ノ存在目的ハ社會的生活ノ全面ニ通スルモノニシテ其ノ生活ノ一方面ニ限ルニ非サレハナリ。』

國家ハ群衆ニ非ス團體ナリ、其ノ體樣ヲ以テ謂ヘハ權力團體ナリ、其ノ目的ヲ以テ謂ヘハ政治團體ナリ、而シテ其ノ構成要素ヲ分拆スレハ一定ノ

民族、一定ノ土地ニ據リ、獨立ノ主權ヲ以テ之ヲ統治スル者トス。』

國家ハ一定ノ民族ヲ其ノ存立ノ基礎トス。一國ハ必シモ限定セラレタル一個ノ民族ヲ以テ成ルト謂フニハ非ス、方今ノ國家組織ハ民族組織ノ根軸ノ上ニ存立スルコトヲ其ノ特色トスルノ義ナリ。民族トハ祖先ヲ同フスルノ人民ノ義ナリ。人間、本、同類、民族ノ別ハ固ヨリ絶對ノモノニ非ス、血統ノ幹枝ノ遠近ノ差ニ視テ其ノ或程度ニ於テ分カルル所ヲ指スノミ。故ニ其ノ分界線ハ常ニ推移シテ固定セス古今其ノ觀念ノ廣狹ヲ異ニシ、大民族ハ能ク異種ノ人ヲ混シ其ノ子孫ヲ同化シ其ノ民族範圍ヲ愈〻大ナラシムルコトアルナリ。蓋民族ノ觀念ハ同祖ノ自覺ニ生ス、此ノ自覺ハ歷史ノ成果タリ。同種ノ人、此ノ自覺ナキカ爲ニ史上ニ一民族ヲ爲サス、異種ノ人、此ノ自覺アルカ爲ニ史上ニ同民族ヲ爲スコトアルヘシ。人類ノ歷史ハ此ノ意義ニ於ケル民族盛衰ノ事跡ナリ、其ノ立國ノ基礎

亦個人的ニ非ス、人類的ニ非ス、民族的ナリ。國家ノ觀念ハ本、民族ノ觀念ニ出テ今尙之ヲ建國ノ基礎トスルハ事實ノ明徵スル所ナリ。』

按スルニ、民族ノ觀念ナクシテ國家ノ觀念アルカ。空想ヲ以テ謂ヘハ即チ之アラン、學者多ク國家ヲ定義シテ單純ニ人間ノ群衆ナリト謂フハ或ハ其ノ意ナラン。蓋此ノ意義ヨリスレハ、民族ノ別ヲ無視シ人類ヲ統一スルノ世界的國家觀念ノ最高理想トスル所ナラン。然レトモ是レ歷史上傳來セル國家ノ觀念ヲ曲ケテ之ヲ別種ノ組織ニ轉用スルモノタルヲ免レサラントス。世界的ナラハ國家的ナラス、國家的ナラハ世界的ナラス。抑、世界人類ヲ綜合シテ一國一家ヲ爲スト謂フハ形容ノ文辭ノミ、實ハ家國ノ否認タリ、歷史上國ト謂ヒ家ト謂フノ觀念ハ世界的人類的ナラス部分的ナルニ於テ即チ其ノ意義ヲ有スルモノナリ。今日ノ社會變遷ノ程度ニ於ケル國家ノ觀念ハ單純ナル個人多數ノ偶然ノ群衆ニ在ラス仍民族分立ノ觀念ノ上ニ存在スル者ナリ。』

民族ノ別必シモ國家ノ別ニハ非ス、民族ノ別ハ素ヨリ絕對ノモノニ非サレハナリ。故ニ一民族分レテ數國ヲ爲シ、一國ハ數多ノ民族ヲ包合スルコトアリ。古ノ異種ノ人今ハ同化シテ一民族ヲ爲シ、今ノ同種ノ人後ニ分化シテ別種ノ民族ヲ爲スコトモアラン。此ノ同化ト分化トハ常ニ行ハレツツアルカ故ニ、一國一時ニ付キテ謂ヘハ此ノ混淆變遷ノ機運ニ際スル者多ク、純白ナル者ハ少シ、然レトモ要スルニ民族ヲ同フスルニ由リテ國ヲ爲シ、國ヲ同フスルニ由リテ同化シテ民族ヲ爲スハ、歷史ノ明徵スル立國ノ通則タリ。今ノ大國ハ多數異種ノ人民ヲ包合スル者アリ、然レトモ多クハ先ツ一定ノ民族其ノ立國ノ基礎タリ中心タルモノニシテ、他ハ之ニ附隨セル者タリ、必シモ始ヨリ各民族ノ平

等對峙ノ聯合タルニハ非サルニ似タリ。』

民族ト謂フ語固ヨリ血統團體ヲ指稱ス、而シテ血統同シキ者相依リテ共同生活ヲ爲ストキハ、自ラ其ノ體軀、言語、風俗、習慣等ニ於テ相一致スル所ヲ發揮シ他ニ異ナルノ特徴ヲ顯著ニスルモノナリ。故ニ轉シテ此ノ特徴ノ異同ヨリ視テ民族ノ異同ヲ謂フコトモアリ。然レトモ是レ其ノ末ノミ、民族ノ民族タルノ本義ハ同祖ノ民タルノ點ニ存スルナリ。但シ同祖ト謂フモ異種ト謂フモ絕對ノ別アルニ非ス、血統ノ或起點ヨリ視テ其ノ始祖ノ異同ヲ謂フノミ。其ノ始祖ト見ルノ起點ハ歷史上常ニ移動スルコトアルヲ免レス。異種ナリト思惟セシノ人、其ノ眼界ノ推擴セラレタルカ爲ニ同祖タルコトヲ自覺シ、若ハ其ノ始祖タルノ起點ヲ更ニ一步遡及シテ其ノ源流ノ相通スルコトヲ追想シ、同化シテ大民族ヲ爲スハ、史上其ノ例乏シカラス。抑、民族ノ異同ヲ謂フハ其ノ當時ニ於ケル民族自身ノ自覺ヲ指スノミ絕對永遠ノ種別アルノ義ニハ非サルナリ。』

今ノ學者多ク國家ヲ定義シテ單純ニ人間ノ群衆ナリト謂ヒ、民族ノ團結ト謂ハス、文字トシテ或ハ無難ナラン。然レトモ是レ國家ノ觀念ヲ薄弱ニシ其ノ歷史的意義ト社會的効用トヲ埋沒スルノ遺憾ナキ能ハサルナリ。蓋國家ノ制ハ人類ノ綜合統一ニ傾向スルニ於テ最モ必要ナルノ一階段タリ、歷史上人類ノ政治的發展ハ此ノ形體ニ於テセリ。想像ヲ以テスレハ或ハ此ノ特種ノ階段ナク個人孤立一躍シテ世界統一ヲ爲スノ時代ノ來ルコトモアラン。唯、今ノ世界ハ國家時代ナリ、今ノ國家ハ民族時代ナリ。予ハ此ノ現今ノ社會變遷ノ程度ニ於テ之ヲ觀念スルノミ。』

國家ハ一定ノ領土ヲ其ノ存立ノ基礎トス。領土トハ民族ノ據リテ以テ國ヲ成スノ土地ニシテ、他ノ權力ノ侵犯ヲ防キ、自己ノ專ラ之ヲ占有スル者ノ義ナリ。凡ソ民族ノ生ヲ營ム常ニ必土地ノ上ニ於テスルハ論ナシ但シ一定ノ土地ヲ民族ノ安宅トシ、他ノ權力ノ侵犯ヲ排斥シテ之ヲ防衛スルニ於テ始テ領土ノ觀念アルナリ。蓋權力ノ支配ハ土地ニ關係ナク唯人身ノ上ニノミ行ハルルコトモアルヘシ、此ノ塲合ニハ未タ領土ノ觀念ナキナリ。今ノ國家思想ハ國ヲ統治スルノ權力ハ一定ノ人民及一定ノ土地ノ上ニ行ハレ、總テ他ノ權力ノ之ヲ侵犯スルコトヲ絕對ニ排斥スルコトニ在リ。領土ナケレハ國家ナシ。民族ハ土着シテ國ヲ成シ、國家ハ領土ヲ有スルニ由リテ能ク民族ノ獨立ヲ防衛ス。民族團體ハ一定ノ土地ニ固着シテ離ルヘカラサルノ關係ヲ有スルニ於テ國家タルノ自覺アルモノナリ。』

按スルニ、古未開ノ世、民族ハ一定ノ土地ヲ占領シテ生活ノ本據トスルコトナク、又ハ土地廣ク人少ナクシテ之ヲ爭フ者ナキニ由リ專占シテ之ヲ領土トスルノ觀念ノ起ラサルコトモアリ。民、耕作ノ利ヲ知ルニ及ヒテ其ノ土地ニ固着スルノ念漸ク深ク、外敵ノ侵犯ニ對シ之ヲ防衛スルニ於テ之ヲ愛惜スルノ情愈〻加フ。遂ニ一定ノ疆域ト一定ノ民族トハ相合シテ離ルヘカラサルノ關係ヲ生スルニ至リテ始メテ國家ノ思想アルナリ。領土ノ語本、或ハ土地ノ所有權ノ義ト混シテ起レリ。然レトモ今ノ領土ノ觀念ハ土地ヲ所有スルノ權利ノ觀念ニ非ス、之ヲ以テ國家自身ノ構成要素トスルノ義タリ。故ニ領土ナケレハ國家ナシト謂フ。國家ニ領土アルハ人ニ住宅アルノ意ト同シカラス、住宅ノ有無ハ人ノ人タルニ關セス、領土ノ有無ハ國家ノ國家タルニ關スルナリ。領土ハ國家ノ體軀ナリ、國家カ領土ヲ有スト謂フモ外物ヲ占用ス

ルノ意ニ非ス人カ身體ヲ有スルノ意ニ於テ之ヲ謂フナリ。國家ノ構成要素ヲ思想ノ上ニ分割シテ謂ヘハ、主權ハ一定ノ土地ノ上ニ絕對ニ行ハル、故ニ主權ニ對シテ之ヲ領土ト謂フナリ、實ハ之ヲ國家ノ領土ト謂フ或ハ失當ナラン、國家カ外物ヲ領有スルノ意義ト相混スルノ虞アレハナリ。領土トハ主權ニ對スルノ成語タリ、既ニ人民、土地、主權ヲ以テ構成セラレタルノ國家カ、更ニ其ノ權力ヲ他ノ土地ノ上ニ行フコトト混同スヘカラス。譬ヘハ人ノ精神ハ身體ヲ支配スルト謂フヲ妨ケサルモ、實ハ精神ト身體トハ一體ヲ爲シテ始メテ人タルモノニシテ、人カ外物ヲ支配スルコトト異ナルカ如キナリ。一國ハ或ル土地ヲ其ノ附庸トシテ其ノ權力ノ下ニ置クコトアリ。又一國ノ權力ハ他國ノ土地ノ上ニ行ハルルコトモアルヘシ。國權ノ及フ所必シモ領土ナラス、領土ノ領土タルハ國

家ノ構成要素ヲ成スニ在ルナリ。領土ハ國家ノ體軀ナルカ故ニ絕對ニ其ノ主權ノ下ニ在ルナリ。學者或ハ領土ヲ解シテ單純ニ國權ノ及フ土地ナリト定義シ、其ノ國家構成ノ要素タルコトヲ顧ミス、之ヲ國家ノ所有物ナルカ如ク觀ルアリ。此レ正當ノ解ニ非ス。國ニ領土アルハ人ニ所有物アルノ理ト同シカラス、寧ロ人ニ其ノ身體アルノ義ト同シ。身體ハ即チ人ナリ、領土ハ即チ國ナリ、人カ身體ヲ有スト謂フノ意義ト人カ物ヲ所有スト謂フノ意義ト同シカラサル所アルカ如ク、國カ領土ヲ有スト謂フノ意義ト國權ノ或ル土地ニ及フト謂フノ意義トハ必シモ常ニ相同シカラサルナリ。』

國家ハ獨立ノ主權ヲ其ノ存立ノ基礎トス。主權トハ國ヲ統治スルノ權力ニシテ、其ノ本質ニ於テ、唯一、最高、無限ニシテ獨立ナル者ヲ謂フ。凡ソ

團體ノ團體タルハ目的ノ一致トノ存在ニ在リ。此ノ一致ハ團體ヲ成ス各個人ノ對等自由ナル意思ノ投合ニノミ由リテ保持セラルルモノトモ視ルヲ得ヘシ。然レトモ單純ニ各個人對等ノ自由意思ノ投合ニ成ル者ハ亦各人自由ノ意思ヲ以テ之ヲ反覆スルコトヲ得ヘク、隨ヒテ其ノ一致ノ保持ハ頗ル薄弱ナリ。若團體自身ニ絶大ノ權ヲ有シ、能ク各個人ノ意思ノ自由ヲ節制シ、此ノ一致ヲ保持スルコトヲ得ハ、其ノ結合ハ强固ニシテ生存競爭ノ中ニ立チ最適者トシテ永ク繁榮セン。國家ノ成リ主權ノ起ル此ノ社會進化ノ結果タルノミ。』

主權ハ國ヲ統治スルノ權力ナリ。統治トハ權力ヲ統ヘ國土人民ヲ治ムルノ謂ニシテ國家ノ目的ヲ遂行スルノ義ニ外ナラス。國家ハ國家トシテ其ノ生ヲ欲スル カ如キナリ。個人ノ生存ハ其ノ意思ニ依リテ之ヲ主張ス、國家ノ生存ハ其ノ權力ニ依リテ之ヲ主張ス。

國ノ主權ハ國ノ生存ヲ主張スルノ權力タリ。國ノ生存ハ其ノ生存ヲ主張スルノ權力ニ由リテ代表セラル、主權ナケレハ國家ナシ、主權ハ國ノ生命ナリ。』

主權ノ要素

主權ハ獨立ナリ、自立自主ノ權力ニシテ國家之ヲ固有ス、他ノ權力ニ依リテ存立スル者ニ非サルヲ謂フ。二ナキヲ謂フ。主權ハ唯一ナリ、國家ノ意思ハ一アリテ權力ノ之ニ對敵スヘキ者ナキヲ謂フ。主權ハ最高ナリ、他ノ權力ノ下ニ立タス又國内ニ於ケルキ其ノ權能ニ絶對ノ限定アルコトナキヲ謂フ。主權ハ無限ナリ、法上ノ動作ニ付ハ主權ハ即チ主權タルコト能ハサルナリ。主權ハ神聖ニシテ侵スヘカラス、之ヲ侵スハ即チ國家ノ生命ヲ侵シ其ノ存立ヲ滅ホスモノナレハナリ。人民ハ絶對ニ之ニ服從スヘクシテ敢テ違フコトヲ許サス。下ニ絶對ノ服從ナクンハ何ソ上ニ絶對ノ權力アルコトヲ得ン。國家主權ハ國

家團體ヲ保護スルノ權力タリ、保護ハ權力服從ノ關係ヲ意味ス。其ノ完全ナル保護ハ各人ノ完全ナル服從ニ由リテノミ存立スルコトヲ得ヘキナリ。』

按スルニ、國家ニ主權アル猶人體ニ精神アルカ如キナリ、二者固ヨリ分離スヘカラス唯思想ノ上ニ之ヲ分離シテ精神ハ身體ヲ支配スト謂ヒ、主權ハ國家ヲ統治スト謂フノミ、之ヲ誤解シテ權力ハ外ニ存シ國家ニ對シテ行動スルモノトナスコト勿レ。抑〻主權ハ國家ノ生命タリ、主權ノ未タ發達セサルノ共同生活ノ狀態ハ之ヲ國家ト謂フヘカラサルト同時ニ、既ニ獨立ノ主權ヲ失ヘルノ國家ハ、歷史ノ因襲ニヨリ仍國家ノ稱呼アルモ、是レ其ノ遺骸ノミ、法理ニ謂フ國家ニハ非サルナリ。主權アラハ即チ國家アリ、國家アラハ即チ主權アリ、二者ノ分離スヘカラサル此ノ如キノミ、或ハ曰フ、國家ニ權力アルコトハ必要ナレトモ其ノ權力ハ必シモ國家最高ノ權力(主權)タルコトヲ要セス、他ノ權力ノ下ニ立ツモ亦國家タルコトヲ失ハスト。此ノ論非ナリ。國家ハ唯一最高ニシテ獨立自由ナルノ權力ヲ具有スルニ於テ國家タリ。史上錯雜ノ成例ヲ以テ謂ヘハ附庸國アリ、半獨立國アリ、保護國アリ、聯邦制度アリ。此ノ類ノ者ヲ漫然一概ニ指稱シテ國家ト謂フハ外交ノ辭禮タルニ過キス、或ハ國家タルノ本質ヲ失ヘル者アリ、或ハ仍之ヲ存スル者アリ。對等ノ約束ニ由リ、甲國ノ權力ノ、乙國ニ及フコトハ仍乙國主權ノ自由ノ承諾ニ出ツルモノト見ルコトヲ得ヘキナリ。此ノ場合ニハ法理上仍乙國ノ主權ノ存立ヲ否認スヘキニハ非ス、ヨシ既ニ獨立ノ實ヲ失ヘルニ近キモノアルモ法理上之ヲ國家ト視ルヲ妨ケサルナリ。然ラシテ、其ノ國法ノ理論上、自己固有ノ權力ヲ失ヒ、若ハ自己固有ノ權力ノ上ニ更ニ高級ナル權力ノ存スルアリ其ノ强制ヲ受クルコトヲ自認ス

ル者ハ、ヨシ事實上他ノ獨立國ト對等ノ實力ヲ具有スルモ、之ヲ法理上國家ト謂フヘカラサルナリ。歴史ノ因襲ト外交ノ辭禮トハ國家ノ遺脉ヲ指シテ仍國家ト稱スルコト頗ル多シ、或ル者ノ論ハ恐ラクハ此レ等ノ成例ニ泥ミテ之ヲ法理ノ説明ノ上ニ救ハントスルノ曲解ニ出テタルナラン、呼稱ノ爲ニ法理ヲ紛ルヘカラサルナリ。』

國家ノ單一不分

國家ハ一ニシテ分ツヘカラス、合同シテ併存スヘカラス。一國ノ分カレテ數國トナリ、又ハ數國ノ合シテ一國ヲ爲スハ、舊國ノ亡ヒテ更ニ別國ノ新立スルモノナリ。國ヲ爲スノ土地人民ハ或ハ分割シ或ハ合併スルコトヲ妨ケス。國家其ノ者ハ國家トシテ分割合併セラレ得ヘキモノニ非サルナリ。國家ハ單一不分ノ特質ヲ有ス、蓋國家ノ生命タル主權ノ單一不分ナルノ特質ニ出ツルモノナリ。』

按スルニ、今ノ國法學者ノ通説トシテ國家ヲ種別シ、單一國家、合同國家、聯邦制度等ノ目ヲ立ツ。此ノ種目類別ハ國家成立ノ歴史上ノ變遷ヲ指示スルニ於テ用ヲ爲スニ過キス、之ヲ視テ抽象的ニ謂フ國家ノ觀念其ノ者ニ多樣多種アルモノトシテハ、予ハ、領土アリ臣民アリ唯一最高ノ主權アルノミ。法理ノ解トシテ一アルノミ。法理ノ解トシテハ、予ハ、領土アリ臣民アリ唯一最高ノ主權ヲ以テ之ヲ統治スル者ヲ國家ト謂フ、必シモ歴史上、政治上、若ハ外交上、國家ノ呼稱アル者ヲ網羅綜合シテ之ニ共通スルノ字義ヲ求メントスルニハ非サルナリ。此ノ如キハ辭書ノ解ナリ、國家ナル語ノ通常ノ用例ヲ穿鑿スルニ於テハ必要ノ事ニ屬ス、法理上ノ觀念ハ之ニ拘ラス別ニ之ヲ定義スルヲ要スルナリ。蓋學者ハ汎ク政治團體ヲ通稱シテ國家ト謂フモノノ如シ。予ハ政治團體ノ特殊ナル者ヲ指示シテ國家ト謂フ、即チ主權團體ナリ。主權ヲ有セサルノ政治團體ハ獨立セス、

必ス高級團體ノ一部ヲ爲ス、故ニ法理ノ分析上、二者ヲ區別シテ主權團體ヲ國家ト觀念シ、以テ似テ非ナル者ト、之ヲ分ツコトヲ便トスルナリ。此ノ觀念ヨリスレハ國家ハ皆常ニ單一國家タリ、殊ニ國家ヲ分チテ其ノ單數ニ成ル者トノ別ヲ爲スヘキモノニ非サルナリ。數國合同シテ一國ヲ成セリト謂フハ其ノ成立ノ歷史ノ事實ノミ、既ニ一國ヲ成サハ即チ一國タルノミ。民族ノ通性トシテ歷史ハ之ヲ棄ツルコト難ク、單純ニ舊國ヲ解散シテ新國ノ下ニ立ツハ政治ノ情勢ノ之ヲ許ササルコトアルハ免レサル所タリ。故ニ武力ノ征服ニ由ル ノ塲合ノ外ハ、國各、其ノ歷史上ノ體面ヲ留保スルニ非サレハ容易ニ他ノ權力ノ下ニ立ツコトヲ肯セサルハ勢ノ然ラシムル所トス。是レ近世ノ歷史ニ於テ、平和ノ合意ニ由リ、小國ノ合同シテ大國組織ニ移ルニハ多ク合同國家若ハ聯邦ノ形式ニ則ル所以ナリ。今ノ所謂合同國若

ハ聯邦制ナル者ハ小國組織ヨリ大國組織ニ移ルノ過渡ノ政治的現象タリ。埃國ト匈國トノ合同ノ如キ、獨逸各邦若ハ米國各州ノ聯合ノ如キ、政治上外交上仍之ヲ各國家ト視ルコトヲ妨ケサルヘキモ、法理ノ觀察ニ於テハ各、獨立シテ主權團體ヲ爲ス者トハ謂フヘカラス、合同聯邦ノ一團即チ單一不分ノ國家ヲ爲ス者ト視ルヘキナリ。獨逸各邦若ハ米國各州ヲ法理上國家ト視ルトキハ獨逸帝國若ハ北米合衆國ハ之ヲ國家ト視ルヲ得サルヘシ。一國家ノ內部ニ更ニ數個ノ國家アリト謂フノ見解ヲ主持スルハ法理ノ分析トシテ國家ノ觀念ヲ薄弱不定ナラシメ推理ノ純白ヲ失フノ譏ヲ免レサラントス。獨逸ノ國法學者ノ、勉メテ國家ノ觀念ニハ主權ノ觀念アルコトヲ要セス最高ノ主權ヲ有セサルモ仍國家タルヲ妨ケスト論辯スルモノハ、蓋一ハ其ノ國ノ政治的情勢ニ顧ミ、新帝國ノ建設アルニ拘ハラス仍歷史アリ實力アル舊來ノ

國家組織ノ體面ヲ支持セント欲スルノ情ニ出テ、一ハ國家ト謂フ文字ノ舊來錯雜ノ用例アルニ拘ハリテ之ヲ救ハントスルニ外ナラサルカ如シ。其ノ祖國ニ忠實ナルハ之ヲ諒スヘシ、其ノ現在ノ政治的情勢ニ投合スルハ亦察スヘシ。然レトモ之ヲ純白ニ、抽象的ニ、公法ノ法理ヲ分析シ結構スルノ學問的觀念ナリトシテハ、主權ヲ具有スル政治團體ト、主權ヲ具有セサル政治團體トヲ玉石混同シ、一ニ之ヲ國家トシ敢テ殊別アルコトヲ認メサルハ理ノ當レルモノト謂フヘカラサルナリ。之ヲ國家ト呼稱スルト否トハ予深ク拘ハラス、唯、予ハ他ニ適當ノ用語ナキカ爲ニ、主權ヲ具有スル政治團體ヲ指シテ國家ト謂ヒ、之ヲ主權ヲ具有セサル者ト別ツノミ。獨逸國法ノ論我カ國ニ入リテヨリ其ノ勢力頗ル大ナリ、故ニ我カ學者ニシテ主權ハ國家ノ國家タルノ要件ナリヤ否ヲ疑フ者多シ。予ハ答ヘン、歐州語ノ國家ト謂フ用例ニハ必シモ主權團體ヲ意味セス、但シ主權團體ト非主權團體トヲ混同シテ國家ト謂フハ公法ノ研究說明ノ上ニ不便ナリ、故ニ予ハ我カ用語トシテ、國家ナル語ハ、公法ノ說明ノ上ニ於テ、主權團體ヲ指示スルニ限リ之ヲ用ヒントト欲スルノミト。若國家ノ語ニシテ多義ナラハ予ハ之ヲ避ケ之ヲ主權團體ト謂フノ簡明ナルニ若カサルヲ思フナリ。』

國家自主ノ生存

國家ハ自主ノ生存ヲ有ス。自主ノ生存トハ自己ノ生存ノ爲ニ生存スルノ義ニシテ、他ノ目的ノ爲ニ他力ニ由リテ設備セラルルノ機關ニ非サルヲ謂ヘルナリ。之ヲ社會變遷ノ跡ニ顧ルモ、國家團體ハ國家團體トシテノ獨立自主ノ活動ヲ爲ス、個人孤獨ノ一時ノ生命目的ノ外ニ、國家トシテノ永遠ノ生命目的ノ存在アルヲ否ム能ハサルナリ。蓋人ハ相依リテ團體ヲ爲シ、個人一時ノ生存ニ超越シテ、更

ニ之ヨリモ高等永遠ナルノ團體生存ヲ爲スノ天則アルモノノ如シ。個人ヲ本位トシテ見ルノ利害ノ念ノ外ニ、社會進化ノ理勢ニ驅ラレ、寧無意識ノ間ニ、團體生存ノ發達スルハ人類ノ本性ニ基ツクノ自然ノ狀態ナリト謂フヘキナリ。顧フニ人類ノ今ノ進化ノ程度ニ於テハ民族ノ發展ハ仍國家組織ノ形體ニ依ル。國家團體其ノ者ヲ自主獨立ノ生存ノ主體トシ、個人ハ相依リテ國家自主ノ發展ヲ支持スルコトニ由リテ各個ノ生存ヲ完成スルコトヲ得ルノ時期ニ在ルナリ。此ノ故ニ國家ハ自主ノ生存ノ主體タリト謂フ。』

按スルニ、國家ヲ以テ自主ノ生存ノ主體ナリト觀念スルコトハ深遠ナル推理ノ成果ニ非ス、猶人ニ自主ノ生存アルコトヲ觀念スルト同クシテ、各人日常ノ直覺タルノミ、人ノ平常ノ認識動作皆此ノ前提ニ歸一スルナリ。若之ヲ否認センカ社會ノ百事總テ其ノ觀念ヲ顚倒セン。各人ニ自主ノ生存アルコトト、國家ニ自主ノ生存アルコトトハ、共ニ其ノ日常活動ノ事實ニ於テ之ヲ視ルノミ他ニ證明アルコトナシ。是レ事實ノ證明ノ最的確ナル者ナリ。學者或ハ國家ハ人ノ爲ニ存ス人ハ國家ノ爲ニ存スルニハ非サルコトヲ謂フ。然レトモ人ノ爲ニ存スト謂フコトヲ、現在特定ノ個人ヲ指スモノトスレハ、史上ノ事實ニ反シ吾人日常ノ直覺ニ違フ、若亦之ヲ汎ク人類生存ノ完成ノ爲ニスルモノト解スレハ、國家ハ人ノ爲ニ存スト謂フコトト、國家ハ國家トシテ自主ノ生存アルコトトハ矛盾スルノ觀念ニハ非ス、蓋民族ハ國家ト謂フノ自主ノ團體ヲ爲スコトニ由リテ其ノ永遠圓滿ノ生存ヲ完ウスルモノナレハナリ。極端ナル個人主義ノ主張スル所ハ、國家トシテノ永遠公同ノ生存ノ爲ニ、現在特定ノ個人ノ利害ヲ犧牲ニスルコトヲ非理ナリトスル。是レ國家ニ自主ノ生存アルコトヲ否定スル者ナリ、延テ國家主權其

ノ者ヲ否定スルノ所謂無政府主義ニ陷ルハ當然ノ結果トス。此ノ如キハ單ニ理論ノ誤謬ト謂フノミナラス實ニ社會ノ秩序ヲ紛亂スルノ大罪タルヲ免レサルヘキナリ。』

國家ハ自主ノ生存ヲ有スト謂フトキハ即チ國家ニ、獨立ニシテ永遠ナルノ、生命アルコトヲ意味スルモノナリ。生命トハ何ソ即チ自主ノ生存ナリ生命ノ存在ハ其ノ生ヲ欲スルノ自主ノ活動ニ由リテ表識セラルルモノナレハナリ。而シテ其ノ所謂生命ハ本來ノ性質ニ於テ獨立永遠タリ。凡ソ物生命ヲ有スト謂ヘハ自ラ其ノ生ヲ欲スルカ爲ニ存スルモノニシテ、又其ノ生ヲ欲スルニ於テ一定ノ期限アルコトナキヲ意味ス、獨立永遠ハ生命ノ本性タルナリ。人生百年古來稀ナリ、國家興廢ノ常ナラサルモ亦歷史ノ明徵スル所ナリ、然レトモ生命ナル者ニ始ヨリ當然一定ノ期間アルコトハ其ノ本來ノ觀念ニ反ス。生命ハ獨立ニシテ永遠ヲ期スルニ於テ生命タリ、國家ニ生命アリト謂ヘハ獨立永遠ノ自主ノ本體タルコトヲ意味スルモノナリ。』

國家ノ意思

國家ニ意思アルカ、曰ク有リ、國家ノ意思ハ即チ主權ナリ。凡ソ意思ノ存在ハ生ヲ欲スルノ自主ノ活動ノ外部ニ顯表スルヲ視テ之ヲ認識スルニ外ナラス。國家ハ其ノ生ヲ欲スルニ於テ最活潑ナル自主的動作ヲ表呈ス、人類ノ歷史ハ全ク此ノ一事ノ記錄ニ係ルト謂フモ或ハ過言ニ非サルヘシ。人ニ意思ノ存在スルコトノ證明ハ全然移シテ以テ國家ニ意思ノ存在スルコトヲ證明シ得テ餘アリ、國家ニ意思ノ存在スルコトハ之ヲ疑フヘキ所ナキナリ。而シテ國家ノ意思ノ外物ニ觸レテ自主的動作ヲナスノ體樣ヲ指稱シテ國家ノ權力ト謂フ。權力ハ意思ナリ、意思ノ發動ヲ指シテ權力ト稱スルノミ、二者其ノ觀念ヲ同ウス、故ニ國家ノ意思ハ即チ

主權ナリト謂フナリ。』

按スルニ、國家ニ意思アルコトハ事實トシテ之ヲ否定スヘカラス、問題ハ唯國家ノ意思ナル者ハ如何ニシテ存立スルカノ點ニ在リ。之ニ答フルハ國體ノ論ニシテ之ヲ後章ニ讓ル。抑、國家ニ意思アルコトヲ疑フ者多キハ蓋意思ト謂フ觀念ヲ自然肉體ニ具有スル自然意思ノコトトノミ解スルニ由ルナラン。此ノ前提ヨリスレハ國家ハ血肉ノ個體ニ非ス、固ヨリ自然意思ヲ具備セサルナリ。然レトモ意思ノ觀念ヲ肉體ヨリ抽象シテ見ルトキハ生ヲ欲スルノ自覺タルニ過キス。國家ニ國家タルノ自覺ナケレハ則チ已ム、若其ノ自覺アラハ即チ意思アルモノト謂フヘキナリ。或ハ謂フ國家ニ意思ナシ人ノ意思ヲ以テ其ノ意思ト爲スト。ヨシ人ノ意思ニ成ルモ、之ヲ其ノ(國家自身ノ)意思トスルコトアラハ即チ國家ニ意思アルナリ。若國家ニ本來自主ノ生存ナク

ンハ何ソ人ノ意思ヲ以テ自己ノ意思トスルコトヲセン、人ノ意思ヲ以テ自己ノ意思トスルコト即チ國家意思ノ動作タルニ外ナラサルナリ。且ツ人ノ意思ヲ以テ國家ノ意思ト爲スト謂フハ然ク機械的ニ之ヲ解スヘキモノニ非ス。國家團體ノ構成分子タル、自然人ノ自然意思ノ分離配合ノ狀態ニ由リ、團體其ノ者ノ意思ノ發動スルヲ指示スルノミ。無形ニ謂フ人ノ意思ナル者カ人體構成ノ或ル體樣ニ由リテ發動スルモノト假定スルモ、之ヲ其ノ人ノ意思ニ非スト謂フヘキノ理ナキカ如キナリ。人體ノ構成ハ法理ノ問題ニ非ス、故ニ人ニ意思アリト謂フハ事實トシテ之ヲ視ルノ外、其ノ以上ニ溯ルコトヲ爲サス、國家團體ノ構成ハ法理ノ問題ニ上ル、個人ヲ分子トシテ其ノ以上ニ復雜ナル組織ヲ有スレハナリ。此ノ見地ヨリシテ國家ノ意思ハ之ヲ探源シテ更ニ之ヲ其ノ成立要素ニ分析スルノ要アルモ(是レ即チ國體ノ論)、之カ爲ニ

國家ノ目的

國家トシテノ意思ノ存在ヲ否定スヘキノ理アルコトナキ寔ニ明白ノ事ニ屬ス。學者ノ惑フモノアルヲ看ル故ニ之ヲ辯ス。』

國家ノ目的ハ其ノ生存ヲ全ウスルニ在リ。其ノ目的ハ事物ヲ列擧限定シテ之ヲ指示シ得ヘキモノニ非ス、人ノ目的ハ其ノ生存ヲ全ウスルニ在リト謂フノ外、事物ヲ列擧限定シテ之ヲ指示スルコト能ハサルト同シキノミ。古來學者カ力ヲ極メ、國家ノ目的ヲ事物ニ付キテ限定センコトヲ試ミルノ總テノ穿鑿ハ、予之ヲ全然無用ノ勞ナリト信ス。人ノ生存目的ハ其ノ生存ニ在ルカ如ク、國ノ生存目的ハ其ノ生存ニ在ルニ外ナラス。其ノ生存ヲ全ウセンカ爲ニハ常ニ其ノ周圍ノ事情ト相戰フテ止マス、國家行動ノ實質ト範圍トハ常ニ之ニ伴フテ變遷ス、豈一定ノ事物ヲ限リ之ヲ指示スルコトヲ得ヘキモノナランヤ。抑〻國家生存ノ目的ヲ、其ノ生存ノ者以外ニ尋子ント欲スルカ如キハ未タ生存ノ何タルヲ解セサルモノト謂フヘキナリ。』

按スルニ、古今ノ學者國家ノ事ヲ論スレハ即チ先ツ國家ノ目的ヲ討究ス、其ノ論多ク高尚深遠ニシテ詳密周到ナリ。予ハ一切之ヲ無用ノ勞ト曰フ、敢テ奇矯ノ言ヲ爲シ以テ世ニ衒フニハ非ス、常識ニ訴ヘテ其ノ然ル所以ヲ信スルノミ。世ノ哲學者流ハ人ハ何ノ爲ニ生存スルカト謂フヲ以テ人生ノ最大疑問トス。予ハ生存ヲ欲スルカ爲ニ生存スルノミト答ヘンノミ、是レ常識ノ解ニシテ亦眞理ノ存スル所タリ。蓋學者多ク一種ノ豫斷アリ、生存其ノ者ハ手段ニシテ、目的ハ仍生存其ノ者ノ外ニ在ルモノト前提スルカ如シ。此ノ豫斷ト前提ハ果シテ何ノ所ヨリ來ルカ。個個ノ人ニ付、個個ノ場合ニ於テハ、其ノ一時ノ具體的動作ハ或ル特定ノ事物ヲ欲スルニ出ツルナルヘシ。然レトモ此ノ個個

ノ動作ノ目的ハ、同一ノ人ニ於ケルモ、個個ノ場合ニ各、異ナルナリ、而シテ此ノ個個ノ動作ニ對スル個個ノ目的ハ一ニ生存ヲ全フスルノ終局ノ目的ニ歸宿スルモノナリ。人ノ衣食ヲ欲スルハ生存ヲ欲スルナリ、生存ハ手段ニシテ衣食ハ目的ナリト謂フコトヲ得サルヘシ。人ハ何ノ爲ニ生存スルカト謂フノ疑問ハ抑、始ヨリ無意義ナリ、寧問題ハ如何ニシテ生存ヲ全ウシ得ヘキカニ在ラン。國家ニ付キテモ亦同シ。古今ノ學者萬口一致シテ國家ハ何ノ爲ニ存在スルカノ問題ヲ絶叫シ、全力ヲ盡シテ國家ノ目的ナル者ヲ討究シ、之ヲ特種ノ社會的事物ノ關係ニ求メントス。曰ク、個人ノ安全、曰ク、最大數ノ最大ノ福利、曰ク、社會ノ秩序、曰ク、法ノ維持、曰ク、立法、行政、司法、曰ク、何、曰ク、何、實ニ牧擧スルニ遑アラス、討究愈、精細ニ入リテ其ノ目的愈、限界ヲ見サルカ如シ。蓋其ノ限界ヲ定ムルコト能ハサル所、即チ國家ノ生存目的ハ其ノ生存ニ在リテ他アラサルコトヲ反證スルモノナリ。抑、生存ハ國家ノ目的ニシテ手段ニ非ス、生存センカ爲ニ活動スルノミ。學者ハ其ノ前提ヲ顛倒シ、國家ハ何事カ生存以外ノ事ヲ爲スヲ以テ目的トシテ、生存ハ唯其ノ手段タルモノナリト豫斷スルカ故ニ、生存スルカ爲ニ生存スル者ト視テハ之ヲ諒解シ能ハサルカ如シ。予ハ之ヲ何等理由ナキノ無用ノ煩悶ナリト斷言スルコトヲ憚ラス、法則ヲ定メ、戰鬪力ヲ備ヘ、社會ノ秩序ヲ維持シ、百般ノ經世濟民ノ事ヲ爲スハ國家ノ生存繁榮ヲ保持セントスルノ手段タルノミ、終局ノ目的ハ即チ生存ヲ全ウスルニ外ナラス、此ノ理明白疑フヘキナシ。』

念フニ、古今學者ノ討究スル所謂國家ノ目的ハ、國家ヲ自主ノ本位トシテノ目的ノ謂ニ非ラスシテ、人カ自己ノ機關トシテ國家ヲ設備スルノ目的ヲ指スモノノ如シ。彼ノ所謂國家ノ目的ハ國家自身ノ目的ノ意

義ニ非ス、寧人ノ目的ノ謂ナリ。國家自身ニ自主ノ目的アルコトハ始ヨリ之ヲ否認シ、國家ハ個人ノ目的ヲ達スルノ手段タルコトヲ豫斷シテ之ヲ前提トシ、而シテ人カ之ヲ何ノ用ニ供スルノ手段機關トシテ設備シタルカヲ問フモノニ似タリ。既ニ國家ハ自主ノ生存ヲ有セサルモノト前提スレハ、國家ハ何ノ爲ニ設備セラレタルカヲ穿鑿スルハ固ヨリ緊要ノ事ニ屬ス。是レ國家ノ目的ヲ問フニ非ス、人ノ目的ヲ問フナリ、人カ國家ヲ設備スルノ目的ヲ問フモノナリ、而シテ此レ同時ニ國家夫レ自身カ目的ヲ有スルコトヲ否定スルモノトス。此ノ類ノ論ハ予ノ茲ニ謂フ所ト根底ヨリ其ノ觀念ヲ異ニスルハ言ハスシテ明カナラン。例セハ、一派ノ說ニ、國家ノ目的ハ治安ノ一事ニ在リ民生ニ干渉シ福利ヲ增進スルカ如キハ其ノ目的ニ非スト謂フノ類ハ、吾人カ國家ナル機關ヲ設備セルノ目的ヲ論スルモノニシテ、國家ハ個人ノ爲ニ存

スル手段タルコトヲ前提トスルニ出ツルニ外ナラサルナリ。國家ヲ自主ノ本體ト視テ謂フ所ノ其ノ目的ト、之ヲ個人ノ器具ト視テ謂フ所ノ其ノ目的トハ、語同クシテ意義全ク異ナルナリ。此ノ間ノ根底ノ異同ハ之ヲ忘ルヘカラサルナリ。蓋特定ノ人カ其ノ自由ノ意思ニ依リ、特殊ノ目的ノ爲ニ結社スルコトト、人カ國家ヲ成スコトトハ其ノ趣ヲ異ニスルハ甚明瞭ナル所トス。其ノ所謂結社ノ目的ハ結社夫レ自身ノ目的ニ非ス結社スルノ各自ノ目的ノ謂ナリ。國家ハ國家トシテ自立ス、人ノ自由意思ニ拘ハリテ設備セラレタルニ非ス、人ハ當然ニ其ノ分子ヲ爲ス、自由ノ合意認諾ニ由リテ社員タルニハ非サルナリ。此ノ故ニ結社ニハ社員各自ノ目的ノ外ニ結社夫レ自身ノ目的アルコトナキモ、國家ニハ其ノ構成分子タル各人ノ目的ノ外ニ、國家トシテノ自主ノ目的アルナリ。此ノ義亦之ヲ混同スヘカラサルナリ。』

國家ハ法理上ノ觀念ニ於テ人格ヲ具有ス。人格トハ法ノ認テ保護スルノ自主ノ生存ノ主體タルノ謂ナリ。肉體個人ニ人格アルコトト、國家ニ人格アルコトトハ、其ノ理毫モ異ナル所ナシ、二者共ニ事實トシテ自主ノ生存アリ且ツ法上ノ認知保護アレハナリ。之ヲ法ノ上ニ認ムルトハ國家自認ノ義ナリ。國家ノ諸般ノ法上ノ活動ハ國家自身ノ自主ノ生存ヲ前提トスルモノト視ルニ非サレハ之ヲ解スヘカラス、故ニ之ヲ其ノ源ニ溯及歸納シテ國家ハ人格ヲ自認スルモノト推定スルナリ。既ニ人格ヲ具有スト謂フトキハ、公法ノ上ニ於テモ、私法ノ上ニ於テモ、人格者トシテ百般ノ法律關係ノ主體タルコトヲ意味スルハ亦言ヲ待タサルナリ。』

按スルニ、人格ノ解、學說由來甚謬レリ。自然人ノ肉體其ノ者ト、法上ニ謂フ人格トヲ混同シ、人ニ權利義務ノ能力アルハ肉體ニ腕力アルト同シク、天賦ノ事實ナリト觀念シ、法理ノ問題トシテ深ク之ヲ分析スルコトヲ爲ササリシナリ。偶〻近世法上、無形團體ノ自主ノ活動ヲ爲スノ事實アルニ遭遇シテハ之ヲ解スルノ所以ヲ知ラス、漫ニ之ヲ法ノ擬制ナリト謂フ、法ハ事實ヲ曲ケテ之ヲ肉體人ト看做スモノトスルノ意ナリ。故ニ之ヲ法人又ハ無形人ト稱シ、之ヲ本來ノ肉體人格ノ變體タル一種ノ奇形兒ナリト爲セルナリ。人格ニ法上ト非法上トノ差ナク、固ヨリ有形無形ノ別ナシ。人間ハ肉體アルカ故ニ人格アルニ非ス、自主ノ生存アルカ故ニ必ス人格アルニ非ス、法ノ認テ之ヲ保護スルカ故ナリ。人間ニシテ人格ナキ古代法ノ奴隸ノ如キアリ、人間ニ非スシテ人格アル近世法ノ社團ノ如キアリ、人格ハ抽象的ノ法上ノ觀念タル知ルヘキナリ。故ニ予ハ人格ヲ解シテ法ノ認テ保護スル自主ノ生存ナリト謂フ。自主ノ生存ハ社會的ノ事實ナリ、此ノ

事實ナクンハ人格ナカラン、此ノ事實アルモ法ノ認知保護ナクンハ亦人格ナカラン、此ノ二要素ヲ具有スルニ於テ初テ人格アルナリ。國家ニ法上ノ人格アルヲ謂フハ唯此ノ意義ニ於テスルノミ、學者或ハ國家人格ヲ人體ニ比類シテ說キ、神秘靈妙ノ理義アルカ如ク謂フハ予ノ採ラサル所ナリ。又今ノ通說ハ、人格ヲ定義シテ權利義務ノ主體ナリト解ス、而シテ權利義務ノ本性ヲ定義スルニハ亦人格ノ觀念ヲ前提トシテ之ニ據ル、論法循環終ニ歸スル所ヲ知ラス。且ツ權利義務ハ人格ノ法上ノ活動ニ生ス、本末差アリ之ヲ顚倒シテ末ヲ以テ本ヲ解スルハ謬レルノ甚シキナリ。』

今ノ通說ハ國家ヲ法人ナリト解ス。予ハ特ニ之ヲ法人ト謂ハス單ニ人格ヲ有スト謂フ。理ニ於テ同シカラン𪜈精神ニ於テ或ハ異ナル所アルナリ。若國家ニ人格アルハ人ニ人格アルト其ノ理同シトセハ即

チ可ナリ、然ラスシテ人ハ自然人格ヲ有シ國家ハ法人格ヲ有スルノ別アルノ意ナランニハ、是レ予ノ謂フ所ト正ニ相反スルナリ。然ノミナラス法人ト謂フノ語、通俗ノ用例極テ亂雜ナリ、或ハ社團ノ享有スル法上ノ人格ヲ指シ或ハ之ヲ移シテ人格ヲ享有スル社團其ノ者ヲ指スコトモアリ。學者或ハコト更ニ此ノ兩端曖昧ノ意義アルニ乘シ、國家ハ法人ナリト謂フノ外形無難ナル定義ヲ掲ケテ、竊ニ國家ハ民主共和ノ社團タルモノナルコトヲ暗示セントスルアリ、其ノ猾惡ムヘキナリ。國家ニ人格アルコトハ時ノ古今ヲ問ハス又國體ノ君主制タリ共和制タルニ關セサルナリ、然ルニ或ハ近世進步セル國家ノ特質ハ法人タルニ在リト說キ、舊來ノ君主國ニ對シ一種異ナルノ法人國ナル者存立スルカノ如キ誤解アラシムルハ妄ナリト謂フヘキナリ。又今ノ學說ニ謂フ社團法人ノ思想ハ專ラ現在多數ノ相互ノ結社タルコトニ聯繫シ、

現在一時、平面ニ擴張スルノ意味ノ外、過去ニ溯リ未來ニ延長スルノ直系永遠ノ團體タルノ、精神ニ成レルモノニ非ス、又各人自由ノ約諾ニ由リテ終始スルモノニシテ、天賦ノ連鎖ニ成ルノ民族建國ノ類ト其ノ源由ヲ異ニスルナリ。故ニ國家ヲ社團法人ナリト謂フハ理ニ於テ妨ケナキカ如キモ、今ノ學說上、特殊ノ聯想之ニ懸ルカ爲ニ誤解ヲ招クノ虞ナシトセス警メサルヘカラサルナリ。又國家ヲ公法人ナリト說ク者多シ。然レトモ何ヲ公法人ト謂フカノ見解ハ一致セス。若人格ニ公私ノ二種アリ、國家ハ公法上ノ人格ヲ有スルモノト爲スノ意ナランニハ事甚謬レリ。人格ニ二種ナシ、國家モ個人モ、共ニ公法ノ上ニモ、私法ノ上ニモ、同時ニ人格者タリ、豈特ニ公法上ニノミ人格ヲ有スル者アランヤ。彼ノ、國家ト國庫トヲ法律關係ノ上ニ分割シ、國庫ハ私法人ニシテ國家ハ無人格又ハ公法人ナリト觀念スルハ、學說由來久シト雖、事或

ハ個人ノ身體ト財囊トヲ分離シ、人格ノ二樣ヲ謂フモノニ似テ予ハ之ヲ取ラサルナリ。之ヲ要スルニ國家ニ人格アリト謂フハ法律關係ノ主體ナリト觀念スルコトニ歸ス。然レトモ有力ナル學者ハ絕對ニ此ノ主體說ヲ否認シ國家ハ法律關係ノ客體ナリト謂ヒ、又ハ法律關係其ノ者ナリト謂フ。國家ハ統治ノ目的物ナリト觀念スル是レ客體說ナリ、國家ハ契約ナリト觀念スル是レ關係說ナリ。抑〻國ト謂フ語、本、專ラ地域ヲ指スコトニ用キ、後ニ土地人民ヲ包括シテ指稱スルコトトナリ、又今ノ學問上ノ用語トシテハ、土地、人民、主權ヲ以テ成ルノ團體ヲ指稱スルコトトモナレリ。蓋國家ハ統治ノ目的物ニシテ統治ノ主體ニハ非スト爲スノ客體說ハ、專ラ土地人民ヲ指シテ國家ト謂ヘルニハ非サルカ。果シテ然ラハ是レ言語ノ用法ノ差異タルノミ、觀念ノ相反スルニハ非サルナリ。彼ノ法律關係說ニ至リテハ根底ノ觀念全ク人格說

ト相反ス。吾人ハ國家ニ自主ノ生存アリト謂フ、彼ハ絶對ニ之ヲ否認シ、國家ハ人ト人トノ會社契約ニシテ獨立自主ノ權力ノ主體タルニハ非スト爲スナリ。此ノ民約說ハ由來頗ル古ク且ツ廣ク行ハレタレトモ、歷史ノ事實ノ之ヲ證明スルモノナク、又事全ク吾人日常ノ直覺ニ反ス、蓋此ノ說ハ根底ヨリ吾人ト立脚ノ基礎ヲ異ニスルモノトス、今一言ヲ以テ其ノ長短ヲ批議スルコト難キナリ。』

國家ノ社會的及法理的兩面ノ觀念

之ヲ綜合シテ謂ヘハ、國家ハ其ノ社會的及其ノ法理的ノ兩面ヨリ之ヲ觀察スルコトヲ得ヘシ。社會具體ノ現象トシテハ、一定ノ民族、一定ノ領土ニ據リ主權ヲ以テ之ヲ統治スルノ團體タリ。法理抽象ノ觀念トシテハ、自主ノ目的アリ、獨立ノ意思アリ、主權ヲ具有スルノ人格主體タリ。今ノ人類ノ文化ノ程度ニ於テハ、國家組織ヲ以テ人類發展ノ本位トス、個人ハ之ニ同化スルコトニ由リテ其ノ生存ヲ全ウシ、民族ハ此ノ組織ヲ有スルニ由リテ繁榮スルナリ。國家ノ觀念ヲ捨テ、國家ノ組織ヲ解キ、人類ヲ綜合シテ平等共和ノ一團ト爲スハ尙夢想ノ空望ニ屬ス。今ノ世界ハ國家時代ナリ、民族ノ發展ハ唯鞏固ナル國家組織ヲ有スルニ於テノミ之ヲ全ウスルコトヲ得ヘキナリ。』

按スルニ、國家ヲ社會進化ノ一現象トシテ視レハ土地、人民、主權ヲ以テ成ルノ團體タリ、而シテ此ノ團體ノ法ノ關係ノ上ニ於ケルノ地位ハ、自主獨立ノ人格者タルコトニ在リ。此ノ二樣ノ觀察ハ固ヨリ抵捂スル所ナキ論ナキノミ。有形ノ團體ト無形ノ人格トハ之ヲ思想ノ上ニ分離スヘク混同スヘカラスト雖、亦之ヲ獨立シテ存在スルノ別物ト看做スコトヲ許サス。團體カ人格ヲ具有スルナリ、團體ノ基礎ナケレハ人格アルコトナシ、團體ニ人格アルハ即チ團體トシテノ法上ノ存在ヲ表

明スルモノナリ。』

人ハ共同生活ニ由リテ其ノ生ヲ遂ク。故ニ人類ノ發展ハ常ニ團體ノ形式ニ於テスルモノナリ。而シテ其ノ團體ノ種類形式ハ一ナラス。古ハ家族、氏族、若ハ部落等ノ團體形式ヲ以テ發展ノ本位トシタルカ如ク、今ハ國家ト謂フノ組織ヲ以テ團體ノ最高等ニシテ最完全ナル者トスルカ如シ。是レ蓋人類ノ生存競爭ノ大勢ニ驅ラレ、幾多ノ變遷ヲ經テ、遂ニ此ノ域ニ到着シタルモノニシテ、今ノ世界ノ事情ニ於テハ此レヲ以テ民族ノ生存發達ニ最適合スルノ團體組織ト爲スモノナリ。個人主義又ハ社會主義ヲ唱フル者、今ノ豺狼相食ムノ世界ニ立チ、人類ヲ綜合スルノ平等共和ノ永久ノ統一ヲ夢ミテ、國家組織ノ解散ヲ想フカ如キハ、即チ民族ノ自殺タランノミ。所謂個人主義ノ極端ナル者ハ所謂社會主義トナリ、社會主義ノ極端ナル者ハ所謂無政府主義トナリ、國家國權ノ組織ニ反對スルアルカ如キハ實ニ國ノ賊ナリ、社會ノ公敵ナリ、國家觀念ノ薄弱ハ必ス民族ノ衰亡ヲ招ク、事理ノ示ス所歷史ノ證明スル所タリ、豈懼レテ愼マサルヘケンヤ。』

第二章　國體

國家ハ主權ヲ具有ス、而シテ國家組織ニ於ケル主權存立ノ體樣ハ一ナラス、此ノ體樣ノ異同ヲ指シテ國體ノ別ト謂フ、國體ハ主權ノ所在ニ由リテ分カルルナリ。』

按スルニ、國體ト謂フノ成語ハ其ノ用例一ナラス、從來ノ通用トシテハ廣ク國家民族ノ特性ヲ指稱ス、主權ノ所在如何亦固ヨリ其ノ國ノ特色ノ一タリト雖、必シモ之ニ限ルノ意義ニハ非サルナリ。然レトモ今茲ニ國家ヲ專ラ法理ノ方面ヨリ觀察スルトキハ、主權ノ所在如何ハ極メテ重要著大ナルノ特徵タリ、而モ適切ニ之ヲ表示スルノ成語ナシ、故ニ予ハ國體ト謂フ語ヲ使用シテ之ニ充テ、以テ法理ノ解說ニ便ス。或ハ國體政體ノ別ヲ混同ス、然レトモ、主權ノ所在ノ別ト、政治ノ體樣ノ別トハ、事自ラ異ナルモノアルナリ。主權ノ所在同シクシテ政治ノ體樣ノ異ナルコトアリ(君主國ニシテ或ハ專制ノ政體ニ則リ或ハ立憲ノ政體ニ則ルアリ)、政治ノ體樣同シクシテ主權ノ所在ノ異ナルコトアリ(君主國民主國共ニ立憲政體ニ則ルアリ)。故ニ予ハ政體ト謂フノ成語ヲ專ラ政治ノ體樣ヲ指示スルニ用ヒ、以テ主權所在ノ區別タル國體ト分チ、之ヲ混同スルコトナキヲ期ス。抑、國體政體ノ別ヲ明白ニスルハ憲法ノ法理ノ主眼タリ、而モ世上ノ、此ノ意義ヲ曖昧ニスルハ、其ノ國家憲法ノ觀念ノ曖昧タルヲ表白スルモノナリ、故ニ先ツ其ノ意義ヲ明確ニス』。

國家ノ體制

國家ノ體制ハ統治主權ノ所在ト、其ノ行動ノ形式ト、ニ由リテ定マル、前者

ハ之ヲ國體ト謂ヒ、後者ハ之ヲ政體ト謂フ。抑〻國家ハ必ス統治主權ヲ具備スルコトヲ要ス。主權ナケレハ即チ國家ナシ、故ニ主權其ノ者ノ存否ハ、國家ト他ノ團體トヲ分ツノ標準タルヘクシテ、國家自身ノ體制ヲ分ツノ所以タルコト能ハサルナリ。國體政體ハ主權ノ存否ヲ問フニ非ス、國家團體內部ニ於ケル其ノ所在ヲ明徵シ、其ノ行動ノ形式ヲ表示スル者ナリ。統治主權ハ國家ニ固有スルノ權力タリ、他ノ權力ヨリ傳來セルニ非ス、國家團體ノ內部ノ組織ニ成ル。蓋團體ノ進化シテ國家ヲ成スハ、其ノ團體自身ノ內部ニ於ケル權力服從ノ關係ノ、分明ニ成立スルコトニ由ルヿ。此ノ權力服從ノ關係ノ分化ハ、即チ統治主權ノ成立ナリ、而シテ主權ノ所在ハ亦其ノ分化ノ態樣ニ由リテ定マル。此ノ分化ノ態樣ハ即チ國ノ歷史ニシテ、古今東西必シモ一ナル能ハス、此ノ異同ヲ指シテ國體ノ別ヲ謂フナリ。』

按スルニ、或ハ曰フ國體ノ穿鑿ハ無用ナリ、主權ノ所在ニ異同アルコトナシ國家即チ統治主權ノ本體ナリト、之ヲ國家主權說ト唱ヘテ、從來ノ君主國體民主國體等ノ區別ヲ調和シ得タリトスル者多シ、此ノ說廣ク獨逸現今ノ公法家ノ間ニ行ハレ延テ我カ國ニ及フ。國家ハ統治主權ノ本體ナリト謂フハ即チ可ナリ、之ヲ理由トシテ主權ノ所在ニ異同アルコトナシト謂フハ即チ不可ナリ。何人モ主權ノ國家ニ存在スルコトヲ否マス、唯其ノ主權ノ如何ニシテ其ノ國家ニ存立スルカハ更ニ別ノ問題ニ屬スルナリ。今茲ニ國體問題トシテ主權ノ所在ヲ謂フハ國家內部ノ組織如何ヲ問フモノナリ、何ソ彼ノ前提ヲ以テ此ノ問題ヲ否定スルコトヲ得ン。抑〻法ノ構成ハ自然個人ヲ以テ其ノ單位トス、且ツ其ノ意思ノ所在ニ異同アルコトナシ。故ニ人ハ即チ意思ノ主體ナリト謂ヒテ其ノ以上ノ穿鑿ヲ否定スルコトヲ妨ケサルヘシ。國家ハ團

體ナリ、法ノ單位ノ合衆シテ、更ニ個人以上ニ復雜ナルノ組織體ヲ成ス者ナリ、人ノ體軀ノ組織ハ法ノ問題ニ非スシテ、國家ノ組織ハ法ノ問題タル所以正ニ茲ニ存ス。國家ノ權力ハ國家ノ組織ニ由リテ生ス、其ノ內部ノ構成ヲ解剖シ其ノ權力ノ存立スル所ヲ究メントス、何ソ主權ハ國家ニ在リト謂フノ概括ノ斷言ヲ以テ、此ノ國體ノ問題ヲ否定スルコトヲ得ン。其ノ所謂國家主權說ナル者何人モ異議ナカルヘキト同時ニ實ハ何等ノ說明トナラス茲ニ謂フ國體解剖ノ勞ヲ省クニ足ルノ効用ナキヲ知ルヘキノミ。』

權力ハ意思ノ力ナリ。權力ハ腕力ニ非ス、腕力ハ筋肉ノ自然動作ニシテ意思ノ奴隸タリ。意思亦必シモ權力ナラス平等ナル意思ノ間ニ在リテハ權力ナシ、意思ニ強弱ノ差等アリテ始メテ權力ノ觀念アルナリ、權力ハ

強キ意思ノ弱キ意思ニ對スルノ力ナリ。意思ニシテ一切平等ナラハ何ソ命令服從ノ關係カ是レアラン、命令服從ノ關係ナクンハ何ソ國家ノ是レアラン。故ニ國家ノ存在ハ意思ニ強弱ノ差等アルコトヲ意味ス此レ即チ權力ノ存在ナリ。所謂主權ハ即チ社會團體ニ於ケル最高強大ノ意思ナリ。團體ハ此ノ特種ノ意思ヲ具有スルコトニ由リテ國家ヲ成ス。國家團體ハ肉躰人ニアラス天賦ノ自然意思ヲ固有セス。此ノ最高絕大ナルノ意思ハ如何ニシテ國家團體ニ存立スルカ。』

自然人ノ自然意思ハ天賦ナリ、而シテ其ノ上ニ一定ノ力ヲ有スルハ法ノ賜ナリ。法ハ自然意思ノ存在ヲ否定スル能ハサルモ、其ノ法上ノ價値ハ或ハ之ヲ否定シ、或ハ之ニ差等ヲ認ムルコトヲ妨ケス。茲ニ謂フ意思ノ強弱ノ差等ハ意思ノ法上ノ評價ナリ、自然意思ノ自然ノ強弱差等ヲ指スニハ非サルナリ。腕力ハ自然力ナリ、其ノ強弱ハ自然事

實ニシテ法ノ能ク之ヲ增減シ得ヘキ所ニ非ス、唯意思ノ法上ノ効力ハ法
能ク之ヲ輕重セン。法カ自然意思ノ法上ノ力ヲ輕重スルニ由リテ、意思
ノ平等アリ、意思ノ差等アリ、平等關係、權力關係ハ茲ニ生スルナリ。所謂
權力ハ意思ノ法上ニ優越ナルノ力ナリ。』

按スルニ、**自然界**ニ於ケル人ノ強弱ハ意思其ノ者ノ強弱ニ非ス腕力ノ
強弱ナリ、強者ノ勝、弱者ノ敗ハ筋肉ノ動作ニシテ命令シ服從スルノ權
力ノ謂ニ非ス腕力ノ之ニ對抗スルニ足ラサルナリ意思其ノ者ヲ尊重
スルニハ非サルナリ。腕力ノ優劣ハ筋肉ノ作用ナリ、命令服從ハ意思
ノ作用ナリ、腕力強キカ故ニ之ニ服從スル能ク命令シ、腕力弱キカ故ニ之ニ服從スル
ノ事實アリトスルモ、既ニ命令服從ト謂フトキハ意思ノ作用ヲ意味ス、
角力者ノ勝敗ハ勝敗ニシテ命令服從トハ謂ハサルナリ。而シテヨシ
腕力ノ差等ニ出ツルニセヨ、精神上ノ威嚇ニ出ツルニセヨ、又迷信ニ出

ツルニセヨ、社會的ノ現象トシテ、人ト人トノ間ニ命令服從ト謂フ關係
ノ存在スルコトアルハ之ヲ否定スル能ハサルヘシ、此レ即チ意思ノ優
劣ノ關係ナリ。法ハ此ノ社會的關係ヲ、或ハ認知シテ保護シ、或ハ禁止
シテ排斥ス、法上ノ權力關係及平等關係ハ之ニ由リテ生スルナリ。權
力關係ハ意思ノ法上ノ優劣輕重ノ關係ナリ、腕力ノ強弱ニ非ス、自然意
思ノ自然ノ優劣ニモ非サルナリ。抑モ意思ト意思トノ關係ニハ平等ナ
ル關係アリ不平等ナル關係アリ。一方ノ意思ヲ以テ他方ノ意思ヲ強
制スルコト能ハサル所、是レ其ノ二者ノ平等ナル所ナリ、一方ノ意思ヲ
以テ他方ノ意思ヲ強制シ能フ所、是レ其ノ二者ノ不平等ナル所ナリ。
法ハ意思ニ此ノ兩樣ノ動作ヲ認ムルコトヲ得。權力ト謂フノ觀念ハ
此ノ法ノ認メタル不平等ノ關係ニ生スルナリ。』

權力服從ノ關係

社會ハ權力服從ノ關係ノ分化ニ由リテ其ノ秩序ヲ全ウス。其ノ分化ノ最發達セル者ハ國家組織ナリ、各人獨立平等ヲ失ハスシテ皆同シク絕對ニ唯一最高ノ權力ニ服從ス。顧フニ社會ノ進化ハ腕力關係ヨリ意思關係ニ移ルニ於テ一步ヲ進メ、意思關係ノ更ニ分化シテ平等關係、權力關係ノ明劃アルニ由リテ復一步ヲ進ム、而シテ其ノ權力關係ノ、唯一ノ主體ニ集中繫屬スルニ到リテ、漸ク完成ノ境ニ達ス、之ヲ國家組織ノ理想トス。蓋無法ノ社會ニ在リテハ意思力ハ腕力ト合一ス、故ニ腕力ノ專制タリ。此ノ腕力ノ專制ヲ抑ユルハ法ノ社會ニ於ケル天職タリ。然レトモ、腕力ハ法ノ能ク與奪スル所ニ非ス、故ニ意思力ヲ腕力ヨリ分離シ、之ヲ節制スルコトニ由リテ其ノ天職ヲ全ウセントス欲スルナリ。法ハ意思ノ節制ナリ、而シテ意思ノ節制ハ亦意思力ニ由ラサルヲ得ス。故ニ意思力ニ優劣ノ差等ヲ認メ、唯一强大ノ意思ヲ以テ衆多ノ意思ヲ節制統一セントス、是レ法ノ社會ニ於ケル作用ナリ。國家主權ノ組織ハ此ノ法ノ社會的作用ノ爲ニ具ハル者ナリ。』

法ハ無ヨリ有ヲ生スルモノニ非ス、社會ノ事實ニ出テ社會ノ事實ヲ規律セントス欲スルノミ。腕力ト意思力トノ分離、及意思力夫レ自身ニ視テノ優劣ノ差等ハ、社會進化ノ必要ニ應シ事實トシテ發生スルモノアリ。壯年多數ノ子弟、善ク老父一人ノ意思ヲ尊重シ其ノ命令ニ服從スルカ如キ草昧ノ世、事實トシテ既ニ存ス。此ノ觀念ヲ推擴シ民族ノ統一ヲ全ウスルカ如キ亦其ノ跡顯然タリ。權力服從ノ關係ト謂ヒ、社會事實トシテ既ニ存シ、更ニ亦法ノ規律ヲ受クル者ナリ。抑、國家ニ權力アリ意思アリト謂フハ法理架空ノ談ニ非ス。國家ニ意思アルハ猶人ニ意思アルカ如ク然リ。人ニ意思アリト謂フハ事實ノ認定ナリ、國家ニ意思アリト謂フモ事實ノ認定ナリ。二者共ニ外部ニ現表スル活動力

ニ由リテ其ノ內部ニ意思ノ存在スルコトヲ推測認識スルノミ。人ニ意思アルコトヲ否定スル者ニ對シテハ、人ノ自主的活動ノ事實ヲ指示スルノ外、他ニ絕對ニ之ヲ證明スヘキナシ。國家ニ意思アルコトヲ否定スル者ニ對シテモ、亦國家ノ自主的活動ノ事實ヲ指示スルノ外、他ニ絕對ノ證明ナシ。法カ國家ニ意思アルコトヲ認ムルハ人ニ意思アルヲ認ムルトノ基礎ヲ異ニスル所ナシ。二者共ニ社會事實ナリ、何ソ國家意思ノミ神祕ノ存在ニシテ解スヘカラサル者ト爲サン、何ソ特ニ之ニ對シテノミ絕對ノ證明ヲ要求スルコトヲ爲サン。』

按スルニ、權力ノ觀念ハ意思ノ優劣ニ出ツ意思ノ優劣ハ法ノ認知シテ之ヲ保護スルニ由リテ始メテ法上ノ差等ヲ視ルモノタリ。然レトモ法ハ亦絕對架空ノ構成ヲ許サス、必スヤ其ノ構成ノ基礎タル社會的ノ對象アルヘキナリ。今、法ノ構成ヲ離レ、單純ニ歷史ノ跡ヲ視ルニ、社會的團體ノ生存發達ハ內ニ權力服從ノ關係ノ明白ニ分化セルモノアリ、外ニ獨立自主ノ統一ノ活動アルニ由ル、而シテ團體カ團體トシテ其ノ獨立自主ヲ自覺スルニ隨ヒテ、社會ニ於ケル權力服從ノ關係ハ其ノ中心ヲ團體自身ニ歸納スルコトトナリ、以テ漸ク國家主權ノ觀念ヲ爲スモノナリ。法ハ此ノ明白ナル歷史事實ニ視テ、國家ノ權力、國家ノ意志ヲ謂フノミ、是レ架空ノ談ニ非ス神祕解スヘカラサルノ事ニ非サルナリ。然ルニ從來ノ學說ハ兩端ノ一ニ偏シ、或ハ國家自身ニ自主ノ生存アリ意思アルコトヲ否定シ、自然個人以外ニ法ノ主體アルコトヲ認メス、所謂國家ノ意思ハ虛空ノ擬制ニシテ言語ノ形容タルニ過キスト爲シ、或ハ又所謂國家ノ意思ナル者ハ自然人ノ意思ニ超越シタル一種異樣ノ神祕ノ存在ニシテ之ヲ信スヘク之ヲ解スヘカラサルモノノ如クニ想像ス。是レ總テ誤解ナリ。吾人ノ國家ニ意思アルヲ謂フハ人ニ

意思アルヲ謂フト同一ノ意義ニ於テス、外界ニ顯ハルル自主ノ活動ヨリ歸納シテ其ノ內界ニ意思ノ伏在スルコトヲ推定スルニ過キサルナリ。此ノ以上ノ證明ナシ亦此ノ以上ノ證明ヲ要セサルナリ。』

國家ノ權力。自然意思法律意思ノ分合。

國家ノ權力ハ國家意思ノ行動ナリ、國家ハ自然意思ヲ固有セサルモ法律意思ヲ有ス。法律意思トハ法ノ上ニ自主ノ活動ヲ認メラレタルノ意思ノ義ナリ。自然人ノ自然意思ハ法ノ認知ニ由リテ即チ其ノ人ノ法律意思ヲ爲ス。故ニ自然人ニ付テハ自然意思ト法律意思トノ別ヲ謂フノ用少ナキナリ。國家ハ團體ニシテ自然人ニ非ス、天賦固有ノ自然意思ヲ具有セス、其ノ所謂法律意思ハ自然人ニ歸屬スルノ自然意思ノ配合ニ由リテ成ル、而シテ其ノ配合如何ハ即チ國體ノ問題タリ。抑〻自然意思必シモ法律意思ナラス、法律意思必シモ自然意思ナラス。然レトモ自然意思ノ基礎ヲ離レテハ法律意思ノ存在アルコトナシ。個人ニ付テハ其ノ二者ノ關係單純ナリ團體ニ付テハ頗ル復雜ナルノミ。法律意思トシテハ團體ニ付テモ個人ニ於ケルト同シク單一ニシテ不可分ナリ、唯其ノ法律意思ノ內容タリ發動機タル自然意思ニ付テハ、團體ハ復雜ナル配合ヲ有スルノミ。一人單獨ノ自然意思ノミニテハ其ノ存在餘リニ短ク、其ノ實力餘リニ弱ク、團體ノ永遠強大ノ權力ヲ成スニ足ラサルモノアルカ故ニ、或ハ之ヲ直系ニ連續シ、或ハ之ヲ平面ニ總合シ、以テ團體ノ法律意思ヲ充實スルヲ要スルコトアルナリ。此ノ自然意思ノ連續セラレ、總合セラレ、以テ國家ノ法律意思ヲ充實シ、法ノ上ニ永久強大ノ單一ノ權力トシテ表呈セラルルノ態樣如何ハ即チ吾人ノ謂フ所ノ國體ナリ。單數若ハ復數ノ自然意志カ、團體ノ統一セル法律意思ヲ構成シ且ツ之ヲ表呈スルノ關係ヲ指稱シテ代表ト謂フ。國體ハ國家代表ノ態樣ニ由リテ分カルルナリ

。』

按スルニ、國家ハ國家トシテ夫レ自身ニ單獨ノ自然意思ヲ固有セス、其ノ意思ト謂ヒ權力ト謂フハ社會的ノ構成ニ出ツ。而モ之ヲ不自然ノ虛構ナリト觀ルニハ非ス、社會ノ變遷ノ上ニ自然ニ成立スルノ現象ニシテ、即チ是レ社會ノ事實ナリ、唯自然人ノ身體ニ生理的ニ具備スル者ト分チテ、之ヲ社會的ノ構成ニ出ツト謂フヘキノミ。此ノ國家意思ノ構成ハ社會的ニシテ生理的ナラサルカ故ニ、亦之ヲ社會的關係ニ分析解剖スルコトヲ得ルナリ、國家ノ意思ハ自然人ノ自然意思ヲ基礎トシ、其ノ分配總合ニ由リテ成ルト謂フハ此ノ意義ニ於テス。個人ニ付テハ自然意思法律意思ノ別ヲ謂フノ用少ナクシテ、國家ニ付テハ此ノ別ヲ明白ニスルニ非サレハ之ヲ解スル能ハサルノ所以亦茲ニ存ス。法律意思トハ單數若ハ復數ノ自然意思カ、法ノ結構ノ上ニ、單一ナル自主ノ活動力トシテ其ノ作用ヲ全ウスルノ義ナリ。而シテ權力ハ歸スル所自然人ノ意思ヨリ發生ス、國家ヲ自主ノ本體トシテノ活動力亦之ニ歸着スルナリ。然レトモ國家自主ノ活動力ハ必シモ單獨一個ノ自然意思タルコトヲ要セス、復數錯雜ナル結合ニ出ツルコトアルヲ妨ケス。是レ社會變遷ノ成果ナリ、是レ法ノ認ムル國體ナリ、所謂國家ノ法律意思ナル者ハ擅ニ法制一篇ノ作爲ニ由リ、無ヨリ有ヲ生スルノ架空ノ構成タルニハ非サルナリ。』

自然意思カ團體ノ統一セル法律意思ヲ構成シ表呈スルノ關係ヲ指稱シテ代表ト謂フ。代表ト謂フ語、多樣ノ意義ニ混用セラレ、隨ヒテ誤解ヲ招キ易シ。茲ニ謂フ所ハ之ヲ代人關係ト混同セサルコトヲ要ス。一人カ其ノ自己ノ法律意思ヲ以テ、他人ノ爲ニ、事ヲ行フハ或ハ之ヲ代理代人ノ關係ト謂フヘク茲ニ謂フ代表ノ關係ニハ非サルナリ。此ノ

場合ニハ或ハ甲ノ意思表示カ當然直接ニ乙ニ權利義務ヲ發生スルノ效果アルコトアルヘシ。然レトモ其ノ表示セラレタル意思ハ尙甲ノ意思ニシテ、乙ノ意思トナルニハ非ス、意思表示ノ主體ト意思表示ノ效果ノ歸着スル主體トノ合一セサルニ外ナラサルナリ。茲ニ謂フ代表關係ハ之ト同シカラス、意思其ノ者ノ供給ナリ。民法ニ謂フ無能力者ニ對スル法律上ノ代人ノ如キハ本人其ノ者ニ意思ヲ供給シテ能力者タラシムルノ制ニ非ス、本人ニ意思ノ缺亡セルコトヲ前提トシ、其ノ理由ノ爲ニ、代人ノ意思表示カ當然ニ本人ノ身ニ效果ヲ生スルナリ。學者多ク茲ニ謂フ代表關係ト其ノ所謂代理關係トヲ混同シ、爲ニ代表ト謂フ語ヲ代理ト謂フ語ト混用ス。代表ト謂フノ文字ノ爲ニ予ノ論旨ヲ誤解セサランコトヲ乞フ。』

國家主權ノ所在

如何ナル自然意思カ如何ナル配合ニ由リテ國家ノ法律意思ヲ成スカハ社會進化ノ態樣ノ問題タリ。國家ニ主權ノ存立スルコトハ國家タルノ要件ナレトモ、其ノ存立ノ態樣ハ素ヨリ同一ナルコトヲ要セス。主權ノ所在ハ歷史ノ結果ナリ、故ニ國體ハ國ニ依リテ同シカラサルナリ。主權ノ所在トハ即チ國家ノ法律意思ヲ成スノ自然意思ノ所在ノ謂ナリ。其ノ所在ハ國ノ歷史ニ由リテ定マリ國民ノ確信ニ由リテ表示セラル。國家主權ノ所在ハ歷史ノ基礎ニ出ツルノ國民ノ確信ニ由リテ決定セラルル者ナリ。』

國民ノ確信

抑〻主權ノ主權タルハ國民ノ之ニ服從スヘク之ニ反クヘカラサルノ確信アルニ由ル、必シモ腕力其ノ者ニ強弱ノ懸隔アルノ事實ヲ指スニハ非サルナリ。此ノ確信ノ存在ハ其ノ主權ヲ侵害シ顚覆セントスルノ行爲ハ、實力ノ如何ニ拘ハラス、之ヲ不正ノ行爲ト觀ルノ國民一般ノ感念アルニ

由リテ證明セラル。或國或時代ニ於テ、特ニ或種ノ自然意思ヲ仰キテ主權ト觀ルコトハ其ノ當時ノ國民ノ確信ニ由ル、而シテ其ノ確信ハ、何カ故ニ特ニ或種ノ自然意思ニ限リ、他ノ者ヲ以テセサルカハ、其ノ國ノ歷史ノ結果ニ出ツ。故ニ國體ハ歷史ノ成果ニシテ國民ノ確信ニ由リテ定マルト謂フ萬世一系ノ皇位ヲ以テ統治主權ノ所在トスルノ我カ國體ハ亦千古ノ歷史ノ成果ニシテ民族一致ノ確信ノ基礎ニ存立スルカ如キナリ。』

按スルニ、國體ハ如何ナル自然意思ヲ以テ國ノ主權ト觀ルカノ問題ナリ。此ノ問題ハ歷史ニ由リテ凝結セル民族ノ確信ノ答フル所ナリ。國體ハ國家主權ノ命令ヲ以テ之ヲ左右シ得ヘキ所ニ非ス、國權ヲ以テ國體ヲ變更スト謂フハ自家撞着ノ不能ノ事ニ屬ス、唯主權自ラ主權タルノ事實ヲ宣言シ能フノミ。憲法成典ノ上ニ國家主權ノ所在ヲ明言スルカ如キハ自己ノ存在ヲ自カラ宣言スルノ外ハ、何等ノ効果アルコトナシ、新憲法ノ新國體ヲ宣言スルノ場合アルカ如キモ、是レ常ニ必ス社會的既遂ノ事實トシテ、其ノ宣言ノ前ニ既ニ主權ノ所在ノ變更シタルノ結果タリ。主權ノ所在ノ變動ハ之ヲ革命ト謂フ、革命ハ國權國法ニ叛反スルノ歷史的事實ナリ、國權國法ノ行動ニハ非サルナリ。此ノ義言ヲ待タサルニ似タルモ世上尙誤解アルヲ免レサル所トス。』

民族ノ確信ハ法ノ淵源タルコト、歷史派法理學大家ノ定論アリ、予ハ「ザビニー」ノ書ヲ讀ミテ常ニ其ノ說ク所義理深遠ニシテ古今ニ通スルノ達觀ナルコトヲ歎稱ス、其ノ言ハ國體ノ事ニ及ハサルモ理ハ即チ同シカラン。法ハ國民ノ確信ニ出テ、國民ノ確信ハ歷史ノ結果ニ出ツ。國民カ或特種ノ自然意思ヲ尊重シテ國ノ主權ト仰キ、腕力ヲ以テ之ヲ侵スヲ不法ナリト信念スルコトアラハ、是レ即チ主權ノ成立ニシテ、而シ

テ其ノ所謂主權ハ腕力ヲ離レテ純白ナル法上ノ權力タルノ域ニ達シタル者ナリ。何カ故ニ其ノ或種ノ自然意思ニノミ限リ之ヲ尊重崇拜スルニ至リシカハ、其ノ社會ニ於ケル進化ノ特種ノ事情ニシテ、條理ノ豫メ之ヲ期スル所ニハアラサルナリ。ヨシ其ノ來歷ノ源因ハ腕力ノ懸隔ニ出テタルニセヨ、又迷信ニ出テタルニセヨ、既ニ意思ヲ意思トシテ之ヲ尊重スルノ信念ノ成立スルトキハ、是レ即チ腕力事實ノ觀念ヨリ超越シテ法ノ理想ノ域ニ入リ權力タルノ觀念ヲ具スルモノナリ。法ハ公正ナリ、社會ニ行ハルルノ公正ノ標準ハ其ノ當時ノ民族ノ確信ニ由リテ表示セラル。主權ヲ主權トシテ之ヲ尊重シ、腕力ヲ以テ之ヲ犯スヲ不正ノ所爲ナリトスルノ信念アルニ由リテ、其ノ主權ハ法上ノ存在ヲ有スルナリ。而シテ國家カ國家トシテノ自主ノ存在ヲ自覺スルコトノ未タ明確ナラサル時代ニ於テハ、其ノ所謂主權ハ特定自然人ノ特定自然人ニ對スルノ權力服從ノ關係ニ盡クルモノト看做サル。其ノ自主ノ生存ノ自覺ノ明確ナルニ及ヒテハ、其ノ主權トシテ尊重セラルルノ自然意思ハ即チ國ト看做サル。是レ現今ノ發達セル國家主權ノ觀念ナリ。之ヲ予ノ國體ノ解トス。其ノ解平平坦坦順風流水ノ輕舟ヲ送ルカ如シ、世人ノ好ンテ異ヲ立テ之ニ同セサルヲ怪ム。』

自然人ノ自然意思カ國家ノ法律意思ヲ成スノ配合鹽梅ハ是レ即チ歷史ノ結果ニシテ其ノ狀態甚多樣ナリ。歷史ハ民族ニ由リテ異ナリ且ツ漸ヲ以テ推シ移ル。故ニ國體ハ其ノ類ヲ列擧シ且ツ其ノ分界ヲ明劃スルコト難シ。國家ノ法律意思ノ裏面ニ伏在スルノ自然意思ハ或ハ特定ノ一個タルコトアリ、或ハ國民ノ全數ナルコトアリ、或ハ其ノ少數若ハ多數

ナルコトアリ、或ハ未定數ナルコトアリ、或ハ此レ等ノ諸種ノ體樣ノ混淆ニ成ルコトアリ、史跡ハ頗ル紛雜ヲ極ム。蓋國體ハ一國ノ特別法理トシテ之ヲ研究スルノ外、論理ノ分析綜合ニ由リ其ノ種類ヲ列擧シ盡スコトヲ得ヘキ性質ノ者ニ非サルナリ。唯史上稍、顯著ナルノ事例ハ君主國體ト民主國體トノ區別ナリトス、然モ此ノ區別モ名實相合セサル者少シトセス。今茲ニ此ノ二國體ノ特徴タル思想ヲ說明シ以テ我カ國體ヲ辯明スルノ參考ニ資セントス。』

按スルニ、歐洲ノ歷史家ハ「テオクラチー」ト稱シ、神ノ意思即チ國ノ主權タルノ、一種ノ國體アルコトヲ謂フ。然レトモ其ノ引ク所ノ事例ニ稽フレハ是レ亦君主國體ノ一例タルニ過キサルカ如シ。國家ハ人間的ナリ、人カ人ノ爲ニ組織セル者ナリ人間以上ニ超越シタルノ天國ノ意味ヲ有セス。君主ノ權威ヲ莊嚴ニスルカ爲ニ之ヲ神意ニ假裝スルニ

トアルモ、神意ニ合スルノ君主其ノ人ノ意思ヲ以テ主權ト仰クノ觀念タルニ過キス、法理論トシテ之ヲ君主國體以上ノ別種ノ國體ト觀ルコトヲ得サルナリ。民意即チ神意ナリト假裝スルノ民主國體ニ付キテモ其ノ理同シ。』

又少數ノ人、若ハ一階級ノ人ノ自然意思ノ綜合シテ國ノ主權ヲ成スモノト觀ルノ事跡モ史上少シトセス所謂貴族國體ノ類ナリ。然レトモ之ヲ實例ニ徵スルニ、純白ニ少數者ヲ以テ主權ノ本體トスル者ト、然ラスシテ主權ハ國民全數ニ在ルモノト觀念シテ、少數者ハ全數ノ名ニ於テ其ノ權ヲ行フ者トノ、分界ノ判明セサルモノ多シ、故ニ此ノ國體ハ大國組織ニ移ルニ隨ヒ、多クハ君主國體又ハ民主國體ノ一ニ歸着スルヲ視ルナリ。』

又現今ノ歐洲ニ謂フ所ノ立憲君主國ナル者ハ其ノ國體ノ觀念頗ル不

明ナリ。蓋其ノ國民ノ一致ノ確信明白ナラサルカ故ニ、其ノ國ノ法律家ノ說ク所モ亦歸一ヲ得サルモノアルカ。或ハ主權ハ仍君主ニ在リト云ヒ、或ハ主權ハ君主及人民ニ在リト云ヒ、或ハ立憲國ノ主權ハ總テ人民ニ在リ君主若ハ大統領ハ共ニ皆人民ノ名ニ於テ其ノ權ヲ行フモノナリト云フ、蓋觀念ノ歸一ヲ得サル是ヨリ甚シキハ少シ。顧フニ、今ノ歐洲ノ所謂立憲君主國ハ名ハ一ニシテ其ノ國體ノ實質ハ必シモ同シカラサルニ似タリ。或國ハ君位ヲ戴クニ拘ハラス主權ハ國民ニ在ルコトヲ其ノ憲法ニ明言ス、或國ハ立憲政體ニ則ルニ拘ハラス統治ノ權ハ之ヲ君主ノ身ニ總攬スルコトヲ其ノ憲法ニ明言ス。或國ハ其ノ國體觀念ヲ曖昧不言ノ中ニ置キ、確信ヲ以テ之ヲ擁護スルノ誠意ナク、之ヲ歷史ノ風波ニ委スルカ如シ、蓋此レ等ノ諸邦ハ變遷過渡ノ時代ニ當リ今仍其ノ國體觀念ノ混沌タルノ狀態ヲ免レサルモノト觀ルヘキナリ。國體ハ歷史ノ成果ナリ、必シモ條理ヲ以テ整然タル分界ヲ明劃シ得ヘキモノニ非ス、此ノ如キノ混淆ノ國體亦國體ノ一種ト視ルヲ妨ケサルナリ。蓋此ノ類ノ混淆セルノ國體ハ歐洲ノ歷史既ニ先例アリ。其ノ所謂中世封建ノ餘勢ニ成ルノ君主國ハ其ノ主權專ラ君主一人ニ在ルニ非ス、貴族團體ト之ヲ分カツノ兩頭國體ナリ。後ニ中央集權ノ勢ヲ遂ケ、君主主權ノ實ヲ擧ケタル者アリシモ、終ニ亦現今ノ立憲制ニ移リ、再ヒ中世ノ兩頭國體ノ舊態ニ復シタルノ觀アルナリ。蓋是レ過度時代ノ歷史ノ變例ニシテ、遂ニ復君主國體民主國體ノ一ニ分化スルノ傾向アルヲ免レサルヘシ。故ニ今茲ニ此ノ二國體ノ本領ヲ明カニスルコトヲ試ミルナリ。』

君主國體ハ特定ノ一人ヲ以テ國ノ主權者トスルノ國體ナリ。之ヲ主權

者トスルトハ其ノ人ノ自然意思即チ國家ノ法律意思ヲ成スノ義ニシテ、主權ハ其ノ人ニ在ルヲ謂フナリ。其ノ主權者タルハ自己固有ノ力ニ因ル、其ノ行フ所ノ權力亦自己固有ノ權力タリ、他人ノ名ニ於テ他人ノ權力ヲ行フニ非ス、他人ノ名ニ於テ自己ノ權力ヲ行フニモ非ス、亦自己ノ名ニ於テ他人ノ權力ヲ行フニモ非ス、自己ノ權力ヲ自己ノ名ニ於テ行フモノナリ。之ヲ君主國體ノ本領トス。』

主權ハ國家最高ノ權力ナリ。君主タル人ノ固有ノ權力ハ即チ國家最高ノ權力タルコトニ由リテ主權タルナリ。主權ハ國家ヲ統治スルノ權力ナリ。君主タル人ハ自己ノ權力ヲ、自己ノ名ニ於テ、國家ノ爲ニ行フニ於テ主權者タルナリ。君主ハ國ニ於ケル最高絶大ノ權力ヲ固有シ、國家統治ノ爲ニ、之ヲ行フ者ナリ。』

國家ノ國家トシテノ、自主生存ノ自覺ナキ時代ニ於テハ、之ヲ個人的ニ視テ、特定一人ノ最高絶大ナルノ自然意思カ民族多衆ヲ保護スルモノト解スルノ外ナシ。國家ノ國家トシテノ自主生存ノ自覺アル時代ニ於テハ、之ヲ國家的ニ視テ、特定一人ノ最高絶大ナルノ自然意思ハ即チ國家自身カ自主ノ生存ノ爲ニ之ヲ具有スルモノト解セラル。故ニ之ヲ國家意思ト謂ヒ國權ト謂フナリ。然レトモ國家自身ハ自然人ニ非ス、自然意思ヲ有セス、國家夫レ自身ニ、絶對ニ、意思アリ權力アルコトハ之ヲ想像スルコト難シ。茲ヲ以テ之ヲ團體意思ヲ解スルノ一般法理ノ觀念ニ移シ、國家ノ法律意思ハ最高絶大ナルノ自然意思ヲ以テ之ヲ充實スルコトニ由リテ成立スルモノト看做スナリ。特定一人ノ自然意思ヲ以テ國家ノ法律意思ヲ充實構成スルハ君主國體ノ特色ナリ。君主ノ意思即チ國家ノ意思タリ、君主ト國家ト相同化ス、君主即チ國家タリ。之ヲ君主國體ノ純白ナル觀念トス。』

按スルニ、君主國ノ觀念ハ東洋ニ於テ特ニ顯著判明ナルノ發達ヲ爲セリ。歐洲ノ立國ハ本、民主共和ノ基礎ニ出ツ、後ニ歷史ノ變遷ニ由リ君主ヲ戴クノ國體アリト雖、其ノ所謂君主ナル者ノ地位ハ自ラ東洋ニ於ケル者ト異ナル所アルカ如シ。此ノ相異ナルノ二者ヲ通シテ同シク君主國體ト謂フハ、歷史ノ事例トスル所ナレトモ、實ハ法理ノ觀念ヲ薄弱ニシ其ノ特性ヲ埋沒スルノ事タルヲ免レサルナリ。東西ノ史上、君主ト稱スル者、其ノ稱呼ニ拘ハリ、法理ヲ以テ之ヲ同視シ辨明スルハ頗ル難シ。「ゲルマン」民會ニ於テ選擧スル所謂君主ト、今ノ佛蘭西國會ニ於テ選擧スル所謂大統領ト、果シテ何ノ法理上ノ差異カアル。今ノ白耳義王國ノ憲法ハ、明白ニ、主權ハ人民ニ在リ君主ニ存セサルコトヲ宣言ス、而モ尙之ヲ君主ト謂フ。白耳義憲法ハ彼ニ在リテハ立憲君主國ノ模範ト稱セラル。然ラハ彼ノ所謂君主ハ主權者ノ義ニ非サル知ル

ヘキナリ。君主ハ世襲ノ大統領タリ、大統領ハ選擧ノ君主タリ。其ノ官職ニ就クノ方法ヲ異ニスルモ、主權者ニ非スシテ主權者ノ委任ニ由リ、官職ヲ行フノ官吏タルニ於テハ二者共ニ同シ。我カ東洋ニ於ケル君主ノ觀念ハ自己固有ノ權力ヲ以テ人民ヲ統治スルニ在リテ、主權ノ人民ニ在ルコトハ相容レス。東西正ニ此ノ如ク相反スルノ國體ヲ唯君主ト呼フノ通稱ノ同シキカ爲ニ、之ヲ混淆シテ一般共通ノ定義ヲ求メントシ、各、其ノ特性ヲ埋沒スルハ法理ヲ明白ニスル所以ニ非サルナリ。故ニ予ハ君主國體ノ最純白ナルノ特性ヲ明徵シ、以テ他ノ國體ト相異同スル所ヲ示スナリ。』

君主ハ主權者ナリ、最高絕大ノ權力ハ其ノ人ノ權力ニシテ其ノ名ニ於テ之ヲ行フナリ。此ノ解簡明ニシテ要領ヲ失ハサルヲ信ス。或ハ說ヲ爲シテ曰ク、君主ノ君主タルハ其ノ本位ニ屬クノ權利ヲ有スルニ在

リ、其ノ職ニ在リテ行フ所ノ權力ハ其ノ人ノ權力ニ非ス他人（人民國家）ノ權力ナリト。是レ東西中世ノ歷史ニ多ク見ル世襲官職ノ觀念ナリ。歐洲ノ君位ハ之ヲ以テ之ヲ解ク或ハ當ラン、何トナレハ彼ニ在リテハ君主ヲ最高ノ官吏ト觀スレハナリ。君主ハ官吏ニ非ス主權者ナリトスルノ國體ハ、此ノ解ヲ以テ之ニ擬スルコトヲ許ササルナリ。官吏ハ他人ノ名ニ於テ他人ノ權力ヲ行フ、君主ハ自己ノ名ニ於テ自己ノ權力ヲ行フ、其ノ混同スヘカラサル亦明カナリ。或ハ又一轉シテ、君主ハ他人ノ名ニ於テ自己ノ權力ヲ行フ者ト觀、又ハ自己ノ名ニ於テ他人ノ權力ヲ行フ者ト觀ルカ如キハ、皆權力其ノ者ノ主體ト權力ヲ行使スルノ主體トヲ分離シテ獨立對峙セシムルノ觀念ニ基ツクモノトス、是レ論理ノ許ササル所ニシテ君主國體ノ本旨ニ反スルモノナリ。權力ノ權力タルハ自主ノ活動アルニ由ル、權力ノ主體ト謂ヒ、權力ヲ行使スル

ノ主體ト謂フ、用語ハ異ナレトモ其ノ義ハ即チ一ナリ。自主ノ活動ナキ權力ハ動カサル風ノ如シ、之ヲ想像スルコト能ハサルナリ。權力ノ主體ナレトモ權力ヲ行使スル主體ニ非スト謂ヒ、權力ヲ行使スルノ主體ナレトモ權力ノ主體ニ非スト謂フコトハ、論理ノ之ヲ想像スルコトヲ許ササル所ナリ。權力ヲ行使スト謂フノ語既ニ弊アリ、實ハ權力自身ノ活動スルノ意タル言ヲ待タサルナリ。君主國體ノ本領ハ君主自身ノ權力ノ活動ヲ以テ國家主權ト觀念スルコトニ存スルナリ。』

特定ノ人ノ最高絶大ノ權力ハ之ヲ社會保全ノ爲ニ行フニ由リテ統治主權ノ觀念ヲ爲ス。然ラサレハ、唯絶大ノ權力ト謂フヘキノミ統治主權トハ謂フヘカラサルナリ。但シ君主ノ權力ハ人民ノ保護ノ爲ニ存シ一身一己ノ私欲ヲ擅ニスル爲ニ存スルモノナラサルノ事由ヲ以テ、其ノ權力ハ君主ノ權力ニ非スシテ人民ノ權力タラサルヘカラスト謂

フカ如キハ、親權ハ子孫ノ保護ノ爲ニ存立スル者ナルカ故ニ、家父ノ權力ニ非ス子孫ノ權力タラサルヘカラスト謂フノ誤解タルト同シク、論スルニ足ラサルナリ。例ヲ假リテ云ヘハ、特定ノ人ノ社會ニ優越セル强大ノ勢力ハ或ハ本、一己ノ私欲ノ爲ニ存立スルコトモアラン。然レトモ社會ニ絶大ナル權力ノ存立シ一人一己ノ私欲ノ爲ニノミ行動シ同類ノ利害ヲ顧ミサルコトハ、社會ニ於ケル生存競爭ノ久シク忍堪シ能フ所ニ非サルカ故ニ、社會ノ多數ハ共通ノ利益ノ爲ニ結合協力シテ之ト戰ヒ之ヲ倒ササレハ已マサルヘシ。故ニ自然淘汰ノ成績トシテ、社會保全ノ爲ニ行動スルノ權力ハ生存繁榮シ、一身ノ私欲ノ爲ニノミ存シ同類ノ利益ヲ害スルノ權力ハ漸ヲ以テ滅亡ニ歸スルナリ。蓋君主國體ハ此ノ社會進化ノ理法ニ從ヒ淘汰ノ成果トシテ今日ニ其ノ生存ヲ全ウスルモノナリ。』

國家ノ國家トシテノ自主生存ノ自覺未タ熟セサル時代ニアリテハ、君主ノ權力ハ、唯單純ニ君主ノ權力トシテ、人民ノ之ニ依賴シテ保護ヲ受クルノ觀念タルニ止リ、法理ノ解釋甚簡明ナリ。東洋ニ於ケル君主國體ノ固有ノ觀念ハ多ク此ノ簡明ナル思想ノ外ニ出テス。然レトモ國家自覺ノ漸ク發達スルニ隨ヒテハ、君主國體ト國家自主ノ生存トノ間ニ調和アルコトヲ要ス。若調和シ能ハサランカ、君主國體ハ漸ヲ以テ衰亡ニ歸センノミ。抑、國家自主ノ自覺ト謂フモ、自然意思ヲ固有スルコトノ自覺ニハ非ス、又自然意思ヲ超越離脫シタル架空ノ意思アリ權力アルコトノ自覺ニモ非ス、其ノ自覺ハ、自然意思ニ成ルノ最高絶大ノ權力カ社會ニ存立スルハ即チ國家自主ノ生存ノ爲ニ存立スルモノタルコトノ自覺ナリ。故ニ君主國體ト國家自主ノ自覺トノ調和ハ既ニ其ノ自覺ノ中ニ存在ス、君主ノ自然意思即チ國家ノ法律意思ヲ爲スコ

トニ在ルナリ。是レ素ヨリ君主國體ヲ愛惜シ、之ヲ國家自主ノ自覺ノ前ニ犧牲ニ供スルニ忍ヒスシテ、特ニ曲論迂解シテ之ヲ救濟セントスルノ立言ナリト誤解スヘカラス。自主ノ自覺アル團體ハ通シテ此ノ法理ヲ認ムルニ非サレハ之ヲ解スルコトヲ得サルヘキナリ。所謂團體意思ハ法律意思ニ非ス。然レトモ所謂法律意思ハ無ヨリ有ヲ生セシムル架空ノ構成ニハ非ス、必ス自然意思ノ之カ基礎ヲ爲シ之ヲ充實スルモノアルニ由ルナリ。其ノ自然意思ノ之ヲ充實スルハ外部ヨリスルノ補助ニ非ス、自然意思即チ團體ノ法律意思ヲ爲スナリ。二者實ハ之ヲ分ツヘカラス想像ノ上ニ一ハ以テ一ヲ充實スト謂フノミ。今國家ニ付テ謂フ所亦此ノ團體意思ノ一般ノ通理タルニ外ナラス。君主國體ノ特色ハ特定一人ノ自然意思即チ國家ノ法律意思ヲ爲スニ在リ、之ヲ略言スレハ君主即チ國家タル者ナリ。』

君位ノ世襲繼承

特定一人ノ自然意思ハ、強大ナル權力ヲ爲スモ、其ノ存在ハ其ノ人ノ生命ト共ニ亡フ、國家永遠ノ自主ノ生存ト相伴フコト能ハサルナリ。此ノ故ニ君主ヲ以テ主權者トスルノ國ニ在リテハ君主タル特定一人ノ自然意思ヲ永遠ニ延長スルノ構成アルコトヲ要ス。此ノ延長ハ唯自然意思ニ續クニ自然意思ヲ以テスルノ、間斷ナキ繼續ニ由リテノミ之ヲ現實ニスルコトヲ得ン。是レ君主國體ニ在リテハ君位ハ特定ノ一系統ニ於ケル特定ノ順序ニ由リテ之ヲ世襲スルノ制ニ則ル所以ナリ。法ハ君位ヲ抽象的ニ視テ、其ノ間斷ナク常ニ特定ノ一人ニ由リテ充實セラルルコトヲ以テ自然意思ノ永遠ナル延長ト看做スナリ。君位ノ繼承トハ前後相異ナルノ自然意思ヲ以テ間斷ナク、唯一永遠ノ國家法律意思ヲ充實スルノ義ニ外ナラサルナリ。抑、國家ノ法律意思ハ時ヲ同フスル數個ノ自然意

思ノ左右抱合シテ之ヲ充實スルニ成ルコトアリ、又時ヲ異ニスル數個ノ自然意思ノ前後連續シテ之ヲ充實スルニ成ルコトアリ。所謂君位ノ世襲繼承ハ自然意思ノ法律意思ヲ構成スルノ配合ノ一態樣ノミ。』

按スルニ、君位ノ世襲繼承ハ君主國體ノ通則タリ。然レトモ之ヲ君主制度ニノミ存スルノ特種異常ノ事ト觀ルハ抑〻法理ノ誤解ニ屬ス。人民各個ノ自然意思ノ總合ヲ以テ國家ノ法律意思ヲ成スモノトスルノ民主國體ニ在リテモ、亦自然意思ヲ以テ自然意思ニ連續シ之ヲ延長スルニ非サレハ國家永遠ノ法律意思ヲ成スニ足ラサルハ其ノ理異ナルコトナシ。且ツ或ハ君主繼承ノ事ヲ不自然ニシテ難解ノ事ノ如ク謂フ者アレトモ、其ノ不自然ニシテ難解ナルハ、同時ニ併存スル多數ノ自然意思ノ綜合シテ一體ヲ成スト觀スルコトノ不自然ニシテ難解ナルト何ソ擇ハン。數個ノ自然意思ヲ直系ニ連續スルモ、平面ニ結合スルモ、難解ノ事ト謂ハハ謂ヘ、是レ共ニ法理ノ作用タリ其ノ間ニ差異アルニアラス、法理トシテ民主國體ヲ解スルコトヲ得ヘクンハ何ソ君主國體ヲノミ難解ノ事ト謂ハン。世論或ハ主權ハ人民ニ在リト謂フハ法理トシテ自然ニシテ解シ易ク、主權君位ニ在リト謂フハ法理トシテ不自然ニシテ解シ難キモノノ如ク想像スルノ形跡アルハ予竊ニ奇異ノ感ナキ能ハサルナリ。』

民主國體ハ人民ヲ以テ主權者トスルノ國體ナリ。人民ヲ以テ主權者トスルトハ、人民各個ノ自然意思ノ綜合ヲ以テ國家ノ法律意思ヲ成スノ義ニシテ國ノ主權ハ即チ人民ノ權力タルヲ謂フナリ。其ノ主權者タルハ、自己固有ノ力ニ出ツ、他力ノ(憲法)之ニ付與スルニ因ルニ非ス、然ラサレハ國家最高絕大ノ權力トシテ國法ノ淵源タルコト能ハサルナリ。人民ハ

亦國家ノ名ニ於テ國家ノ權力ヲ行フニ非ス、自己ノ名ニ於テ自己ノ權力ヲ行フナリ。人民ト國家トハ同化シテ一體ヲ爲シ、人民ノ權力即チ國家ノ權力ヲ爲スモノナリ。之ヲ民主國體ノ本領トス。』

民主國體ノ特色ハ人民各個ノ大數ノ自然意思ノ能ク綜合聯結シテ國家唯一ノ法律意思ヲ成スノ點ニ在リ。之ヲ綜合聯結スト謂フ、語ハ易クシテ理ハ解シ難シ。君主國體ノ場合ニ於テハ單一ナル自然意思ノ單一ナル法律意思ヲ構成スルノ事ニ係ル、故ニ其ノ解稍〻易シ。民主國體ノ場合ニ於テハ衆多ノ自然意思ノ綜合聯結ノ事ニ係ル、如何シテ之ヲ現實ニスルコトヲ得ルカ。』

或ハ之ニ答ヘテ曰ハン、是レ國ノ憲法ノ問題ナリ、憲法カ民會ヲ設ケ其ノ議決ヲ以テ立法スルカ如キ、即チ民意ヲ綜合スルノ方法ナリト。其ノ言似テ非ナリ。抑〻此ノ方法手段ヲ設ケ、其ノ民意ヲ綜合スルノ權力ハ、果〻

テ何人ノ權力ソヤ。之ヲ憲法ト謂ハハ其ノ憲法ハ果シテ何人ノ作爲ニ出テタルカ、其ノ原動ノ權力即チ主權タラン是レ即チ民意ノ綜合タラン。國會ヲ設ケ選擧ヲ行ハシメ、多數決ニ由リテ政治スルカ如キハ、抑〻末事ノミ、此ノ事ハ君主國體ノ下ニモ亦之ヲ行フ所タリ、民主國體ノ成立ハ其ノ源ヲ此ノ事以上ニ溯ラサルヘカラサルナリ。顧フニ所謂民意ノ綜合ハ他力ノ之ヲ綜合スル者アリテ成ルニハ非ス、多數各個ノ自然意思ノ、自主ノ動作ニ由リテ相互ニ結合一致スルモノト解スルノ外ナシ、民會ノ制ノ如キハ、既ニ成レルノ、民意ノ綜合ノ結果タリ、之ニ由リテ始テ其ノ綜合ヲ得ルニハ非サルナリ。主權ノ所在ハ歷史ノ成果タル民族ノ確信ニ由リテ定マル必シモ條理ヲ推シテ之ニ溯ルコトヲ得ス。民族ノ視テ以テ其ノ主權ハ人民各個ノ自然意思ノ綜合ニ成レリト確信スル所、即チ其ノ國體ノ民主タルノ唯一ノ證明ナリ。其ノ以上ニ絕對ノ證明アルコトナ

シ。此ノ民族ノ確信ヲ移シテ法理ノ解トナシ、人民各個ノ自然意思ハ綜合シテ以テ國家ノ法律意思ヲ充實シ、外部ニ顯ハレテ統一セル國家主權ヲ爲スモノナリト謂フナリ。人民ノ意思即チ國家ノ意思タリ、人民ト國家ト相同化ス、人民即チ國家タリ。之ヲ民主國體ノ純白ナル觀念トス。』

按スルニ、民主國體ハ其ノ源甚遠シ、上世ノ民族小部落ニ分立スル者、其ノ始ハ多ク此ノ制ニ則リシナリ。然レトモ其ノ大國組織トナルニ及ヒテハ、一變シテ君主制ニ移ルヲ例トス。獨歐洲民族ハ民主國體ノ純白ナル觀念ヲ數千年ノ久シキニ傳ヘ能ク之ヲ大國組織ニ應用シ得タリ。是レ彼ノ歷史ノ特色ニシテ民主制ハ寔ニ歐洲國體ノ精華タル者ナリ。故ニ歐洲後世ノ立國或ハ名ヲ君主制ニ假ル者アルモ、其ノ國體ノ眞相ハ多ク民主ノ觀念ニ歸着ス、其ノ君主國體ノ觀念ニ東洋ニ於ケルカ如ク純白ナル能ハサルナリ。』

民主國體ノ本領ハ、人民各個ノ意思ノ綜合シテ唯一最高絕大ノ國家主權ヲ成スコトニ在リ。此ノ意思ノ綜合ハ、或者之ヲ各個ノ意思ノ、相互ノ契約ニ成ルト謂フ、所謂民約說ナリ。然レトモ億萬ヲ以テ數フルノ人、且ツ刻刻生死常ナラサルノ間ニ於テ、能ク個個ノ意思ノ間ニ約束ノ成立スルコトアルハ之ヲ想像スルコトヲ得サルナリ。又立國ノ始、少數ノ民、相約シテ以テ主權ヲ成シ、能ク後世億萬ノ人ヲ羈束セリト謂フノ說アルモ、事實トシテ未タ之アルヲ聞カス、法理トシテハ之ヲ解スルコト能ハサルナリ。契約ノ當事者ヲ束縛スルハ法律ノ力ニ由ル、權力後援ノ觀念ナクシテハ契約ノ束縛力ヲ想像スルコトヲ得ス、況ヤ當事者以外ノ、後世億萬ノ人ヲ束縛スルノ效力アラシムルニ於テオヤ。今主權ノ成立ヲ契約ノ效力ニ求メントス、水源ヲ下流ニ探クルニ似タリ。顧フニ、民意ノ綜合シテ主權ヲ成スト謂フノ觀念ハ具體的事實ノ之

ヲ絶對ニ證明スルモノアルニ非ス、寧主權ハ一人一個ノ權力ニ非ストスルノ消極的ノ感覺ヨリ、推シテ之ヲ確信シテ疑ハサルニ於テ、其ノ國體ノ基礎ヲ爲セル者ナラン。主權ノ成立ハ社會的ノ事實ナリ、而シテ其ノ成立ノ事跡ハ上古遼遠今傳ハラサル者多シ、或ハ無意識ニ成立セリ。後ノ民族回顧シテ其ノ成立ヲ追想シ、確信シテ疑ハサル所、之ヲ其ノ國體トス。是レ唯一ノ根據タリ、民族ノ確信ハ法ヲ成ス、其ノ以外ニ絶對ノ證明アルニ非サルナリ。』

史ヲ案スルニ、上世ノ所謂部落國家ニハ多ク民會ノ制アリ、民會ハ部落人民ノ總會ナリ、民意ノ綜合タルノ主權ハ茲ニ始メテ成立ヲ視ルモノト解スヘキニ似タリ。然レトモ論理ハ此ノ解釋ヲ許ササルナリ。何カ故ニ當時ノ人民ハ之ヲ他ノ權力ニ求メス、民會ヲ開キ其ノ決スル所ニ絶對ニ服從シタルカ。是レ既ニ民意ノ綜合ヲ以テ最高ノ權力トスルノ前提ノ存スルモノアルニ非スシテ何ソヤ。其ノ前提ハ即チ民族ノ確信ナリ。上世ニ民會ノ制アルハ民主國體ノ存在シタルノ明徵ナリ、民主國體ノ成立セル源由ニハ非サルナリ、世ニ此ノ因果ヲ顚倒スルノ論ナシトセス、故ニ一言ヲ加フ。』

之ヲ想像スルニ上世淳朴ノ社會、人民稍〻平等ナリ、貧富、智愚、聲望ノ後世ニ於ケルカ如キ懸隔アルコトナシ。隨ヒテ一人一個ノ實權ノ能ク社會ニ優越シテ萬衆ヲ服セシムルニ足ル者少ナカラン。而モ主權ノ存立ハ社會進化ノ必要ノ要求タリ。故ニ無意識ニ存立スルノ主權ハ民族ノ之ヲ民意ノ綜合ニ成レリト觀念スル甚近シ。是レ恐ラクハ原始社會ニ民主國體ノ行ハル多キノ所以ナランカ。而シテ戰爭ハ個人的ノ優劣强弱ヲ顯著ニシ、權力聲望ノ特定ノ人ニ歸スルノ因ヲ爲スアリ、生產力ノ發達ハ人ニ貧富ノ階級ヲ爲スアリ、且ツ國家組織ノ稍大ナル

ニ及ヒテハ、民衆多キニ過キ、異種ノ人亦混シ、古ノ國民總會ノ制ニ則ルコト亦難シ、是レ漸ヲ以テ君主制度ニ移ルノ地ヲナシタルモノナラン。後世ニ大國組織ヲ爲シ君主ヲ戴ク者ト雖、其ノ民族ノ祖先ノ建國ハ純白ナル民主國體ニ在リシコト史傳ノ明白ナル歐洲民族ノ如キニ於テハ、民族結合ノ自覺ヲ、此ノ祖先建國ノ基礎ニ懸ケ、大國ヲ以テ民主ノ國體ニ復歸スル者亦少シトセサルナリ。蓋血族團體ニ成リ祖先崇拜ヲ結合ノ主動力トスルノ國家組織ニアリテハ、貧富、智愚、強弱、聲望ノ差等ナクトモ、社會ヲ成スノ始メヨリ既ニ天賦ノ首長アリ、家ニ家父アルカ如クニ、民族ニ民族ノ天賦ノ首長アルナリ、民族ノ祖先ノ威靈ヲ現在ニ代表スル者即チ民族ノ當然ノ主權者タリ。民衆平等ノ合意ヲ以テ民族ノ主權トスルハ、寧祖先崇拜ノ大義ニ反ス、祖先ヲ代表スル者ハ特定ノ一人タルコトヲ要スルナリ。是レ祖先崇拜ノ大義ヲ主動力トシテ成レルノ、血族團結ノ國家組織ニ於テハ、始メヨリ立國ノ基本ヲ君主制ニ採ルノ事實アル所以ナリ。上世淳朴平等ノ社會、必シモ共和民主ノ國體ニ則ルヲ自然ノ傾向ナリト謂フニハ非ス。唯祖先崇拜ノ大義ヲ主持セサルノ社會ニ於テノミ其ノ觀アルニ過キス。此ノ義東西ノ史跡歷トシテ之ヲ明徵スルニ足ルモノアルナリ。』

第三章　政體

政體ハ統治權行動ノ形式ナリ。統治權行動ノ形式ハ國家統治權其ノ者ノ所在ヲ動カスコトナクシテ能ク變遷ス。政體ノ異同ハ國體ノ異同トハ事自ラ別アリ二者ヲ混同スヘカラサルナリ。』

按スルニ、國體ハ主權ノ所在ニ由リテ定マリ、政體ハ主權行動ノ形式ニ由リテ分カル、憲法ノ大義ハ此ノ二者ヲ辨別スルニ非サレハ遂ニ之ヲ明白ニスルコト能ハサルヘキナリ。抑〻政體ノ異同ハ國體ノ異同ヲ意味セス、國體同シクシテ政體異ナルアリ、政體同シクシテ國體ノ異ナルアリ。政體ハ國體ヲ動搖スルコトナクシテ能ク時勢ノ須要ニ應シテ變遷ス。我カ上世、制度尚簡朴、萬機天子ノ親裁ニ係ル。中世大ニ漢土ノ法制ヲ採リ百官有司整然トシテ備ハリ、中央集權ノ政大ニ張ル。後

ニ綱紀漸ク弛ミ、武門權ヲ專ラニシ政令幕府ヨリ出ツ、今ハ維新ノ洪猷ニ由リ、再ヒ權力ヲ中央ニ集メ、立憲シテ統治ス。是レ皆政體ノ變遷ニシテ而シテ我カ千古ノ國體ハ毫末モ之カ爲ニ動搖シタルコトナキ言ヲ待タサルナリ。歐洲ノ所謂立憲政體ナル者モ君主國民主國ニ通シテ行ハル。國體ト政體トハ別種ノ觀念ニシテ混スヘカラサルコト知ルヘキノミ。』

憲法ノ大義ヲ誤ルノ虞ハ國體政體ノ觀念ヲ混同スルニ出ツルヨリ甚シキハナシ。此ノ二者ノ辨別ヲ明白ニセス、或ハ此ノ別アルコトヲ否認スルノ傾向アルハ、實ニ歐洲憲法論ノ通弊タリ。彼ノ法理ノ解トシテハ、凡ソ國家ト謂ヘハ其ノ主權ノ所在ハ初ヨリ皆同一ノモノニシテ、國體ノ別アルコトナク、君主國共和國ト謂フハ歷史上ノ呼稱タルニ過キス是レ唯政治ノ體樣ノ末ニ於テ分カルルモノナリトスルノ論ハ多

ク世上ニ通用スル所タリ。此ノ論ノ非理ナルコトハ前ニ國體ノ章ニ詳カニ說ケリ。國體ハ如何ナル自然意思ヲ以テ國家ノ法律意思ヲ充實スルカノ問題ナリ。政體ハ既ニ自然意思ヲ以テ充實セラレタル國家ノ法律意思カ、如何ニ行動スルカノ形式ノ問題ナリ。國家カ憲法ヲ制定スト謂ハハ、既ニ先ツ或ル自然意思ニ由リテ充實セラレタルノ國家ノ法律意思ノ成立存在スルアリテ、此ノ國家ノ意思即チ主權カ自ラ行動スルノ形式ヲ宣明スルモノタル論ナキナリ。故ニ憲法ニ由リテ定マルノ政治ノ體樣ハ、國家意思ノ創立ノ問題トハ全ク其ノ歸趣ヲ異ニスル甚タ明白ノ事ニ屬ス。然ルニモ拘ハラス、歐洲ノ學者ハ國體政體ノ別ヲ混同ス、其ノ弊延テ我カ國ニ及ホシ、世論一時之カ爲ニ沸騰セリ。我カ國嘗テ立憲ノ政體ヲ採ラントスルニ當リ、所謂主權論ナル者朝野ニ囂シカリキ、立憲國ノ主權ハ人民ニ歸屬スト謂フノ論議ナリ。

蓋立憲政體ニ則ルハ即チ主權ノ所在ヲ移動スルノ義ナリト誤解シタルニ由ル。予ハ當時及ハストト雖努メテ純白ナル我カ君主主權ノ國體ト所謂立憲ノ政體トハ兩立シテ相戾ラサルノ義ヲ明白ニセント試ミタリ。爾來殆ント三十年、我カ世論既ニ定マレルモノアルカ如キモ、我カ學者ニシテ歐洲ノ國法論ニ心醉スル者ハ尙此ノ大義ニ關シ、コト更ニ一種曖昧ノ强辨ヲ試ミ、暗ニ人ヲシテ疑ヲ容ルルノ餘地アルヲ思ハシムノ說ヲ爲スモノ少シトセス、寔ニ痛歎ニ堪ヘサルナリ。』

統治權行動ノ形式ハ時勢ノ須要ニ應シテ常ニ變遷ス、故ニ政體ハ固ヨリ之ヲ限リテ一定ノ類別ヲ爲スコトヲ得ヘキニ非サルナリ。抑〻政體ノ種別ヲ謂フハ歷史ノ談ニ屬シ今茲ニ之ヲ詳ニスルコト能ハス、但シ專制政體、立憲政體ノ別ハ今ノ政治ノ上ニ特ニ重要ナルノ關係アリ、故ニ其ノ大

概ヲ述ヘントス。』

按スルニ、政體ノ異同ヲ網羅シ之ヲ類別シテ其ノ數ヲ限ルコトハ其ノ性質ノ之ヲ許ササル所ナリ、統治行動ノ形式ハ理論ヲ以テ豫メ限定シ得ヘキモノニ非サレハナリ。日常限リナキノ法令ノ改變ハ即チ統治權行動ノ形式ノ多少ノ異同ヲ爲スモノタルナリ。古來學者カ名目ヲ定メテ政體ノ種類ヲ謂フハ其ノ歷史ニ顯著ナルノ大勢ヲ指示スルノミ理論ノ分析ヲ以テ之ヲ數ヘテ盡シ得ヘキニハ非サルナリ。中央集權ト地方分權トノ別、又ハ郡縣ノ制ト封建ノ制トノ別、又ハ專制ト立憲制トノ別ノ如キ、過去ニ於ケル政治變遷ノ顯著ナル成績ヲ回顧スル歷史ノ概念タルノミ、固ヨリ政體ノ種類ヲ豫想シテ一定スルノ義ニアラサルハ論ナキナリ。予ハ、今ノ政治學者カ、理論トシテ國體政體ノ種類ヲ列擧限定セントスルノ傾向アルヲ欣ハサルモノナリ。』

今ノ政治ニ顯著ナルノ政體ノ異同ハ專制政體ト立憲政體トノ別ナリ。而シテ此ノ專制ト立憲制トノ別ハ、之ヲ權力分立ノ主義ニ懸ケテ念スルニ非サレハ其ノ本旨ヲ明カニスル能ハサルナリ。所謂權力分立ノ主義ハ、一人ニシテ國權ヲ總攬シ立法、行政、司法ノ諸權力ヲ兼併專行スルトキハ、權勢ヲ濫用シ下民ヲ壓制スルノ弊ニ陷リ易キカ故ニ、須ク此ノ三權力ヲ分立セシメ以テ一人ノ專制ヲ抑ユヘシトスルノ本旨ニ出ツ。此ノ主義ハ本英國政治史ノ特色タル王室ト國會トノ軋轢ニ源由シ、之ト併行シテ英國學者ノ理論トナリ、後ニ「モンテスキユー」ニ由リテ廣ク世上ニ行ハレ、米國ノ獨立、佛國ノ革命以來之ヲ新政體ノ根軸トスルコトトナレリ。立憲政體トハ權力分立ヲ主義トスルノ政體ナリ、專制政體トハ權力兼併ヲ主義トスルノ政體ナリ。歐洲ニ於ケル立憲ノ新政體ハ權力兼併ニ反

抗スルカ爲ニ起レルハ歷史ノ明徵スル所タルナリ。』

按スルニ、專制政體ト立憲政體トノ分岐スル所ヲ、權力分立ノ主義ニ懸ケ、一ハ權力兼併ノ政體ナリ、一ハ權力分立ノ政體ナリ、ト解說スルハ予ノ特ニ主持スル所ニシテ、內外學者ノ之ヲ說クモノハ多ク事曖昧ニ流レ此ノ如ク直裁ノ斷定ヲ爲スコトナシ。抑〻立憲ノ制ハ英國ノ政治ニ由來スト謂フ、然レトモ其ノ學者ハ自國ノ政體ノ特徵ヲ概括抽象シテ斷言スルコトニ長セス。佛國學者ノ論ハ概ネ國體ノ觀念トヲ混淆シ、立憲制ノ本領ハ民主主義ニ在ルカ如ク分權主義ニ在ルカ如ク、或ハ又分權主義其ノ者ヲ解シテ主權ヲ國民ノ手ニ移スノ義ト見ルカ如ク、其ノ說雜駁ニシテ明確ナラス、一言直裁以テ其ノ本領ヲ指摘スルノ斷ニ乏シ。獨逸ノ學者ハ多ク民主主義ヲ排斥スルト同時ニ亦權力分立ノ主義ヲ否定ス、故ニ所謂立憲政體ナル者ノ特性ハ遂ニ之ヲ正確ニ明言スルコトヲ爲シ能ハスシテ其ノ論曖昧ニ流レ散漫ニ失フ。而シテ內外世俗ノ之ヲ談スルハ政治一時ノ情勢ニ驅ラレ、總テノ善政ハ功ヲ立憲制ノ特質ニ歸シ、總テノ惡政ハ罪ヲ專制ノ本領ニ嫁スルノ妄斷アルニ至レリ。或ハ謂フ立憲政體ノ特性ハ民主主義ニ在リト。然レトモ純白ナル民主主義ハ古來久シク諸國ノ實踐スル所、之ヲ指シテ新政體ノ特徵ト見ルコト能ハス、況ンヤ事實トシテ君主國體ノ下ニ在リテモ尙立憲ノ制ニ則ル者少ナカラサルニ於テオヤ。或ハ謂フ其ノ特性ハ國會ノ開設ニ在リト。然レトモ國會ノ制ハ亦民主主義ト共ニ歷史ノ上ニ由來スル所甚古シ、何ソ之ヲ新政體ノ特徵ト見ルコトヲ得ン。蓋古來ノ歷史ニ顯著ナラスシテ特ニ今ノ政體ニ異彩ヲ與フル者ハ歐洲十八世紀ニ忽然大勢力ヲ爲セルノ分權ノ主義ニ非スシテ何ソヤ。予カ立憲政體ノ特徵ヲ茲ニ求メ、之ヲ以テ專制ノ政體ト分

ツノ岐點ト爲スハ此ノ理由ニ出ツルナリ。之ヲ英國ノ歷史ニ徵スルニ、國會ノ制ハ甚古シ、而シテ後世ニ立法權ハ國會ニ依リテ之ヲ行フノ原則確立シテ、國王ノ大權トスルノ行政ト其ノ分界ヲ明カニシ、又司法裁判ノ事漸ク政府ノ權威ヨリ分派シテ獨立ノ端ヲ開ケルノ時期ニ至リ、始メテ之ヲ立憲制ノ起源ト見ルヘキナリ。佛國王政全盛ノ時、既ニ司法權ノ獨立ハ其ノ萌芽ヲ見ルコトヲ得ヘシ、而シテ其ノ大革命ニ因リ國會ヲ開キ之ヲ立法權ノ根軸トシ、以テ行政權ノ外ニ獨立セシメタルニ由リテ立憲ノ政體ヲ全ウセル者ナリ。米國ハ新ニ國ヲ建ツル者固ヨリ過去ノ事情ニ拘ハルノ要少ナシ、而シテ其ノ當時ノ理想トシテ制定セルノ憲法ハ純白ナル分權主義ノ實行ニ外ナラサリキ。所謂分權主義ナル者ノ立憲政體ノ本領タルコト歷史ノ明徵亦此ノ如シ、豈之ヲ吾人ノ私論ト謂ハンヤ。』

權力分立ノ主義

專制政體ト立憲政體トノ分カルル所ハ所謂分權ノ主義ノ存否ニ在リ。請フ先ツ權力分立ノ意義ヲ說カン。抑〻權力分立ノ本義ハ國權ノ行動タル立法、行政、司法、ノ三權ヲ分チ各〻獨立ノ機關ニ依リテ之ヲ行フノコトニ存ス。之ヲ解シテ主權ヲ三分シテ其ノ統一ヲ失ハシムルモノト爲スハ謬レリ。國家主權ハ一ニシテ分ツヘカラス圓滿ニシテ無限ナリ。而シテ唯一不分ニシテ圓滿無限ナルノ統治主權ハ、自ラ憲法ヲ設ケテ其ノ行動ノ形式ヲ定ム。立法權、行政權、司法權、ノ別ハ此ノ憲法ニ由リテ始テ生スルノ國權行動ノ形式タリ。所謂權力ノ分立ハ憲法ノ條規ノ下ニ於ケルノ制度ニシテ憲法以上ニ超然タル國家統治ノ主權其ノ者ニ懸ルノ主義ニ非サルコト知ルヘキナリ。』

按スルニ、由來分權主義ヲ論スル者、之ヲ主張スル者モ、之ニ反對スル者